Ⅰ　学校経営における健康教育について

１　学校経営方針と健康教育

（１）　学校教育目標及び教育計画への位置付け

①　本校の概要

本校は、大正 12 年に旧制大津中学校を前身として創立され、昨年創立 90 年を迎えた歴史と伝統のある学校である。創立以来、「向学、誠実、敬愛」の綱領の下、「知、徳、体」の調和のとれた人材の育成をめざしている。

時代の要望に応え、昭和 61 年に理数科、昭和 62 年に美術コース、体育コースを１学級増設し、現在１学年８クラス、生徒数 955 名の普通高校となり、生徒の夢の実現に向けて全職員で教育に取り組んでいる。

生徒は素直で明るく、前向きに頑張る姿勢を持っている。

【「凡事徹底」～“大高力”を結集し、目指そう文武両道日本一】をスローガンに、大学等への進学実績は年々躍進を続けるとともに、全国大会に度々出場を果たす男子サッカー部や、女子バスケットボール部などを始めとして、所属率 83%をしめる部活動に、朝夕、汗を流している。

また、各種コンクールで上位入賞する県下有数の美術コース、理数科のＳＰＰを始めとする高大連携による本格的な科学研究など、芸術・文化、理数教育の面でも多くの実績を上げている。

さらに、今年度第 28 回を迎える、自らの体力と気力の限界に挑戦するフルマラソン「チャレンジ大会」では、殆どの生徒が７時間の制限時間内に完走し達成感を得て、心身ともに逞しく育っていく充実した様子が見られている。

このように生徒の元気な様子が目立つが、その中でも健康面の課題を考えると、アレルギー疾患や 0.9 以下の視力者が全国平均をやや上回ること、殆どが県平均を上回る新体力診断テストだが、ハンドボール投げが下回り投げる力の強化が課題としてあげられる。しかし最も課題なのは、部活動や課外で受診の時間をうまく作れず、健診後の治療率が 40%と低いことである。一方心の面では、90 校を超える全国の中学から進路目標を持って集まっているが、１年当初は自分の居場所作りに悩む生徒もいる。

そこで、心身の自己管理に積極的に向かわせると共に、様々な活動を通して人間関係作りを学ばせ、心豊かにたくましく育てることに取り組んでいる。

② 学校教育目標

本校の教育目標は、「教育基本法」の理念、及び、「県立中学校・高等学校における教育指導の重点」に基づき、綱領「向学、誠実、敬愛」の具現化に努め、２１世紀を担う有為な人材の育成をめざしている。

この目標に向けて、「知、徳、体」の調和のとれた人材の育成をめざし、

当たり前のことを、当たり前に・・・
「凡事徹底」～“大高力”を結集し、目指そう文武両道日本一～

としている。そして、目指す生徒像を、

ア　基本的な当たり前の生活（挨拶・掃除・服装・言葉遣い等）がきちんとできる生徒。
イ　自ら考え、自ら行動する主体性・自主性を持つ生徒。
ウ　勉強や部活動など何事にも意欲を持って果敢に挑戦し、目標達成に向けて励む生徒。
エ　自己に厳しく、誇りと自覚を持って生活し、けじめをつけることの出来る生徒。
オ　思いやりの心を持ち、価値観の違いを理解し、感謝の気持ちを忘れない生徒。
カ　日本人としての自覚と国際感覚を身に付け、「世のため人のため」尽くす意欲を持つ生徒。

としている。

そのために、次の**３つの重点目標**をあげ、具体的な実践を展開している。

ア　進路指導の充実強化・・・「知」

・「授業力」の向上
・進路意欲の高揚
・指導体制の確立
・小論文指導、読書指導の充実

イ　道徳教育の推進・・・「徳」

・「凡事徹底」
・日本人としての自覚と国際意識の高揚
・“一流に触れる”経験
「こころの教育講演会」や芸術・文化行事を通した道徳的心性の涵養

ウ　部活動の振興・・・「体」

・各部の達成目標の完遂
・部員の「人間力」の向上
・支援体制の整備

③　教育目標実現への健康教育の考え方

この重点目標の基盤にあるのは、生徒の心身の「健康」である。
この３つの重点目標について、健康教育の視点から考えてみる。

ア　『進路指導を充実強化』するためには、まず、睡眠、食事等の基本的生活で授業に集中するための体を整える準備をすることが必要である。そして、生徒一人ひとりの学習に対する意欲を高めることが必要である。さらに、日常に起きている様々なことに対して、気づく目・感性を育て、それを、自分でどう行動するかに繋げる教育が必要である。

　そのためには、読書を通して様々な知識を得て心の経験をすることや、実際の経験を通して見聞を広めることに努めなければならない。

そして、自尊感情を高め、自ら考え、主体性を持って判断・行動することができることや、社会の変化に対応できる能力や態度を育てることが大事であると考える。

イ　『道徳教育の推進』のためには、当たり前のことが当たり前にできるよう、丁寧に生徒を見て、ほめる、指導する、積み重ねの指導が必要である。まず、基本的生活習慣を確立させ、校内の美化や学習環境を整備させることを通じて、公共心や自己をみつめる教育活動が必要である。

　また、日本の伝統から学ぶ、礼儀正しさ、真面目さ、思いやりの心、いのちを大切にする心を育てること、豊かな人間関係づくりのためのコミュニケーション力をつけることが大切であると考える。

ウ　『部活動の振興』のためには、技術力・競技力だけではなく、「人間力」を育てることを基本とし、その向上を図りながら学校生活の充実させることが大切であると考える。そのためには、主体的な健康生活の習慣化、つまり、常によりレベルアップをしたものを目指すモチベーションづくり、体力作りの習慣化、望ましい食習慣の形成、良質な睡眠を得るための 24 時間の生活時間をデザインする力をつけることが必要であると考える。また、個だけではなく、様々な集団としての活動を通して学びあうためのチーム作りにも取り組んでいきたい。

　以上のように、様々な視点から多角的に機会を捉え、健康教育を推進することにより、本校の目指す生徒像にせまることが出来ると考える。

そこで、「知」「徳」「体」のそれぞれを踏まえて健康教育のしかけを行い、主体的に生徒が取り組み、達成感を得て、自尊感情を高めることを重視した、生き方教育としての健康教育を展開することを意識して、課題解決に向けて取り組んでいるところである。

④　教育計画への位置付け

学校教育目標に揚げられた　『当たり前のことを当たり前に』出来る生徒を育てるために、５Ｗ１Ｈの考え方のもと、教科学習活動のみならず、休み時間等の日常生活時間全般や、体育大会、文化祭、チャレンジ大会（フルマラソン大会）などの様々な行事や、委員会活動、部活動を通じて、生徒の主体性を育み、自尊感情を高め、生徒自身がより前を向いて成長しようとする計画に取り組んでいる。

ア　進路指導の充実強化・・・「知」では、生徒の望む進路が実現出来るよう、校務分掌間の連携をはかると共に、大学や公的機関、専門機関等の校外とも連携し、様々な知識を得るだけでなく、それを生きる知恵にしていく健康教育活動を行うことを基本とし、取り組みを重ねている。具体的には、小論文や面接時に資料となる健康に関する知識を紙面、放送、講話の様々な機会を通して学ばせている。また、進路目標によりマッチした健康学習が自主的・意欲的にできるよう、専門家を招いていての**【健康ミニ講座】**を放課後の時間帯に設けている。

イ　道徳教育の推進・・・「徳」では、当たり前のことが当たり前にできるよう、掃除指導を**『掃育』**と位置づけ、「環境を整える」ことで、学習能率を向上させるとともに、「心を整える」指導をすすめている。

（SSK-P）

また、いのちを大切にする心、思いやりの心を育てるために、保健部の職員を核として、**『大切なことは生徒に一番身近な教師が伝えること』**を重要視し、全職員で連携して**『手作りのこころの健康教育』**を企画し、特別活動全校 LHR として実践している。

さらに、スクールカウンセラー（臨床心理士）を平成 19 年度より配置し、家庭、学校、地域が連携して、生徒の心身の課題に対応できるよう体制を整え、組織的な指導を推進している。

また、カウンセラー便りを定期的に発行し、LHR でグループエンカウンター学習を行う等、生徒のこころを整えることに取組んでいる。

ウ　部活動の振興・・・「体」では、「人間力」を育て、「体を整える」ために、心身の健康状態を全職員で共通理解できるよう、学年会、各部会、等の校務分掌の縦横で情報交換を行い、部活動顧問会議や職員会議等で、定期的に全職員で再認識できるよう工夫を重ねている。また、怪我や問題、あるいは日本スポーツ振興センターの利用状況についても、すぐに

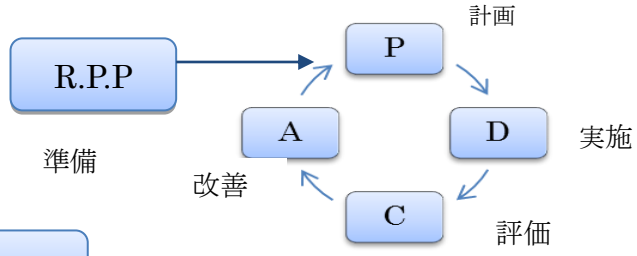
全職員が知ることが出来るよう、常に「報・連・相」を意識して、指導にあたっている。また、その状況については、スライドやプリントにまとめ、視覚的にも理解がシェアできるようにしている。

学校最大行事であるチャレンジ大会（フルマラソン大会）では、体育の授業の積み重ねや部活動で培われた目標に向かって体調を整えることや、自分の限界にチャレンジする強い気持ちを発揮することで、自分自身を評価し前向きに進化する機会としても機能している。

このように健康教育活動を推進していくことにより、本校教育目標の具現化をはかり、目指す生徒像に育てていくことに取り組んでいるところである。

（２）　健康教育推進の配慮事項

マネジメント（健康教育を経営する）の考えに基づいて実践に取り組んでいる。



① R.P.P　生徒の「現在」の実態を把握するために、様々な視点から情報収集し、健康課題を見つける。

② P　生徒が自ら感じ、考えたものを自主的に企画・実践することで自尊感情を高めること。そしてそれを評価し、生徒が次のステップに進めるよう教師の指導・支援を工夫すること。

③ D C　連携をコンセプトに、学校保健委員会を核として、学校、保護者、地域、大学、専門機関などと共に、より能動的な教育を創造していくこと。

③ A　保健主事を中心として、学校全体の「報・連・相」を意識し、タイムリーに動きが学校全体に届き、評価・改善され、次のアクションが出来るよう、目に見える化に努めること。

２　健康教育に関する計画

○　諸計画作成に当たっての考え方

ア　ヘルスプロモーションの考え方に基づき、組織的な活動をとおして、生徒の健康づくりのための実践力を育成し、健康安全に関して適切な思考・判断や意思決定が出来る健康教育の推進を図ること。

イ　また、進路目標実現に向けての総合的な教育であることを意識して立案している。

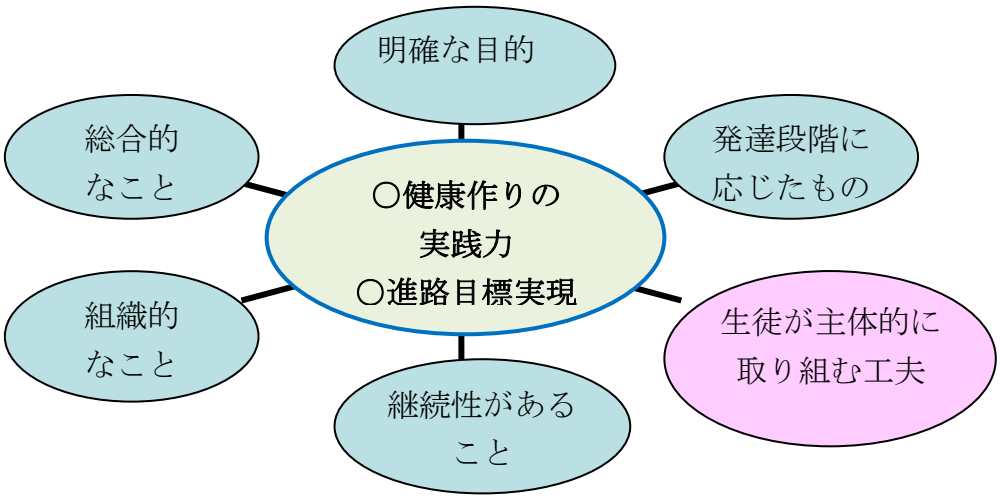


図 1　計画の考え方

計画に当たっては、生徒が様々な知識を得て、それを生きていくための知恵にしていく行動変容へ導くために、生徒自らが考え、行動できるように、**主体的に取り組む工夫**に特に配慮している。

自ら考え行動することで創造の喜びを知り、それが自他共によい変容をもたらすことを学べば、自尊感情が高まり、学習や運動にもよい影響を及ぼし、人間的な成長につながると考えられる。自己の可能性の芽を伸ばす答えは、「こころ」「からだ」「環境」を整える自らの実践を通して自分自身の内にあることを、教え育てたいと考えている。

また、職員の共通理解や連携づくりを推進するために、生徒理解研修や危機管理マニュアルの確認や実技、さらに、ＬＨＲや総合学習時の健康教育では全職員の企画参加で作り上げる協働体制作りに力を入れて計画している。

○　具体的な留意点

ア　体を整え、学習・体力、スポーツ面での能力をアップさせるための健康教育からのアプローチであること

イ　環境教育・安全教育の推進を行うこと

ウ　自尊感情を高め、心を整え育てるものであること

エ　情報の共有化と理解による生徒への適切な指導・支援を図るものであること、に留意している。

また、課題を明確にするために毎年、保護者、生徒、教職員を対象に実施する「学校評価アンケート」に健康安全の項目を設け、その結果を様々な健康教育後の生徒の評価と共に分析を行い、次の計画に生かすようにしている。

（1）学校保健計画と配慮事項

①学校保健計画　　（平成 24 年度学校保健計画）

	学校保健関連行事	保健管理		保健教育	組織活動
		対人管理	対物管理		
4月	健康診断 新入生ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ 健康相談	各種健康調査票の整理 定期健康診断の計画と実施	掃除用具の点検整備・配置 大掃除、安全点検 机、椅子の点検 水質検査	健康診断受診指導 生徒保健委員会・美化委員会年間計画 保健便りの発行 **SSK-P 指導** 健康講座準備	保健部会（火曜/週） **共通理解が必要な生徒研修会　ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰとの連携活動**　生徒保健・美化委員会
5月	健康診断	**共通理解が必要な生徒把握**	安全点検・改善 照度、騒音測定 **花壇の植え替え**	保健便りの発行 健康講座準備	**共通理解が必要な生徒研修会**　生徒保健・美化委員会
6月	職員研修 健康相談	健康診断票の整理 職員健康相談	プール水質検査 安全点検・改善 ゴミ分別状況点検、ﾄｲﾚ点検	保健便り発行 **AED 救急法研修会** **健康ミニ講座** **環境教育 LHR**	保健統計まとめ 生徒保健・美化委員会　**薬物乱用防止教室開催**
7月	**ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ清掃活動** 健康相談	疾病治療勧告・指導 各種健康調査票整理	大掃除**花壇の植替** 安全点検・改善 **水質検査** 教室の空気検査	環境美化と衛生活動 保健便りの発行 **健康ミニ講座**	保健部会 生徒保健・美化委員会 **SSK-P 点検**
8月		夏季休業後健康調査	掃除用具の点検	資料作成	生徒保健・美化委員会
9月	体育大会 文化祭 健康相談	体育大会前健康調査、治療状況調査 麻しん接種状況調査	安全点検・改善 **ダニ検査**	**体育大会救急法（熱中症対策）**保健便り発行**健康ミニ講座** **生徒保健委員会・美化委員研究発表**	保健部会 生徒保健・美化委員会 **学校 ISO 宣言**
10月	**学校保健委員会** 健康相談	健康調査	安全点検・改善 **照度及び照明環境検査** **騒音環境及び騒音ﾚﾍﾞﾙ検査**	保健便りの発行 **健康ミニ講座** **こころの教育 LHR** 学校保健委員会 生徒保健委員会研究発表（熊本県）	保健部会 **大津町内一斉清掃** **ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動** 学校保健委員会 生徒保健・美化委員会
11月	**ﾁｬﾚﾝｼﾞ大会** **防災訓練** **学校衛生委員会**	**チャレンジ大会前健康調査、健康診断**	安全点検・改善 清掃状況点検	保健便りの発行 **防災訓練** **健康ミニ講座**	保健部会 生徒保健・美化委員会 **衛生委員会**
12月	修学旅行 健康相談	健康調査、健康診断 健康状況まとめ	**ﾎﾙﾑｱﾙﾃﾞﾋﾄﾞ CO2 検査** 安全点検・改善 大掃除 **花壇の植替**	保健便りの発行 **健康ミニ講座**	保健部会 生徒保健・美化委員会　**SSK-P 点検　共通理解が必要な生徒研修会**
1月	前期入試	感染症罹患調査 治療状況調査 麻疹接種状況調査	安全点検・改善	保健便りの発行 **健康ミニ講座**	保健部会 生徒保健・美化委員会
2月	後期入試 前期選抜 健康相談	受験生健康調査 保健室来室状況まとめ	安全点検・改善 清掃状況点検 教室の空気検査	保健便りの発行 **健康ミニ講座** **生教育（1,2 年２回）**	保健部会 **共通理解が必要な生徒研修会**
3月	後期選抜	日本ｽﾎﾟｰﾂ振興ｾﾝﾀｰまとめ 学校保健安全計画の評価、まとめ	大掃除 安全点検・改善 総括 **花壇の植替**	保健便りの発行 **健康ミニ講座** **生教育（３年生）**	保健部会 生徒保健・美化委員会　**SSK-P 点検・まとめ**

② 配慮事項

今年度も、より進化させて取り組みたいことに、**『こころの教育』**がある。平成 20 年度より取り組みを開始したこの教育は、外部講師をお招きして行うものだけではなく、生徒たちに一番身近な教師が体験を織り込みながら作り上げていくことで、生徒の心に迫るものとなっている。平成 23 年度は、**『誰かに伝えたいありがとうの教育』**、平成 24 年度は、**『教師が実際に出会った生と死のいのちの教育』**として行い、生徒も教師も多くの涙を流し、人とのつながり、いのちについて考えた。今年度もしっかりと準備して、教師と生徒の**『心を繋ぐ教育』**として、ますます充実させていきたい。

また、今年度、特に配慮すべきこととして、**『環境教育の充実』**がある。平成 20 年度より、環境教育に取り組み、平成 23 年度 ISO 取得、平成 24 年度 ISO 宣言を行い、現在、環境教育の定着・拡大を図っている。

今年度は特に、昨年度より一層、生徒が主体性を持って動くことを重点的に行うように計画している。その一例として、昨年までは、保健部職員が行っていた、年度当初の全校集会時の掃除プレゼンテーション指導を、生徒保健委員会で行った。

これまで、様々なピア･エデュケーション活動を行ってきたが、これをより様々な日常の場面へと拡大した活動により、指導を行った生徒も、指導を受けた生徒も互いに刺激し合うこと、学び合うことでより一層の教育効果が上がると考えている。

また、**『環境を整えることが、心を整える』**ことにつながるという、**SSK-P（学習環境整備プラン）**にも力を入れていきたい。現在、花植えボランティア活動は年間３回行っている。回を重ねる毎に参加者が増え、100 名／回を超える生徒が、放課後２時間程、汗を流して畑を耕し花を植えている。終了後は、皆、笑顔で反省会をし、次の活動へと動いている。校舎内に留まらず、花植えや木々の間におかれたベンチの整備等を通して、生徒の心を穏やかに、豊かに整える工夫を重ねていきたい。

花植えボランティア

ISO 認定証取得

（2）学校安全計画と配慮事項

① 学校安全計画　　（平成 24 年度　学校安全計画）

		安全教育								安全管理		
		安全学習					安全指導			対人管理	対物管理	
月	項	保健体育	公民	理科	家庭科	総合的な学習	学校行事	課外指導	部活動	学校生活の安全管理	学校環境の安全点検	組織活動
4	安全な通学	体育施設・用具の安全点検 既往症の把握	現)青年期の問題	器具・器材の安全な扱い方　施設設備・薬品管理等の点検	施設器具・機械の取扱いと使用上の注意、点検・整備、熱源・電気器具の取扱いと使用上の注意 換気・手指の消毒・身支度の徹底・食器類、刃物類の安全な使い方	地域の安全と防災	入学式・始業式・春の交通安全指導・定期健康診断・1年生ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ	自転車バイク通学許可校門指導	新入部員オリエンテーション	通学状況調査 防災体制の確立.救急体制の確立.登下校指導.安全計画の設定.アルバイト調査	安全点検整備（施設・設備、通学路、自転車バイク置場） 防災設備の点検整備	春の全国交通安全運動 交通委員会
5	学校生活での安全	定期健康診断の結果から運動制限等生徒の発見と指導 交通安全	(現)青年期をどう過ごすか	実践上の一般的な注意及び危険防止の注意			交通講話 高校総体総分 祭壮行会	自転車、バイクの点検 校門指導	用具の点検整備	授業時の安全確認（体育実技、実験、家庭科実習）	安全点検整備（教室、特別教室、理科室、家庭科実習室） 環境整備・美化作業	交通指導 PTA総会 交通委員会
6	梅雨期の安全	館･ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ使用について(転倒防止) 水泳の安全指導	(現)現代社会の特徴	物)摩擦力、運動量、円運動等により車の安全運転理解			防災訓練 高校総体総文 救急法講習会	健康診断結果の指導	部活動部長会 救急法実技講習会	水泳指導健康管理 梅雨期の健康管理	（体育館、武道場部室、運動器具） 水質検査（水道・プール）	保護者面談 交通委員会
7.8	野外活動の安全	熱中症予防 野外活動と安全	(現)都市問題	(物)衝突・運動ｴﾈﾙｷﾞｰ及びｴﾈﾙｷﾞｰ保存法則により車の衝突理解			終業式 夏休みの諸注意.ｸﾗｽﾏｯﾁの安全.野外活動の安全	校外指導 自転車、ﾊﾞｲｸの実技指導 校外巡視	合宿・遠征の安全	長期休業前の生活指導 大掃除の安全確認.夏休みの安全確認	安全点検整備（校庭、学校全般）プール水質管理.消化器消火栓火災報知器の点検	学警連絡委員会 校外補導、危険箇所巡視
9	学校行事の安全	体育大会準備　体育施設用具の安全点検 熱中症予防		(物)振動の共振を理解させ、正しい処置行動がとれるようにする			体育大会の準備 体育施設・用具の安全点検 熱中症の予防 文化祭の準備	校外巡視	用具の点検・整備	防災対策の徹底 通学路見直し	安全点検整備（実験実習器具）.通学路安全点検.プール水質管理消化器、消火栓火災報知器の点検	秋の全国交通安全運動 交通指導 交通委員会
10	交通道徳の理解		(現)生存権・環境権	(生)ガス中毒、一酸化炭素中毒の仕組みと応急手当			町内一斉清掃 ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ活動	校外巡視	活動場所の安全点検	授業時の安全見直し 事故災害時の応急手当方法の徹底	安全点検整備（体育館、部室、運動器）	学校安全（保健）委員会
11	安全な行動	体力と体育について考える					防災訓練 チャレンジ大会	校外巡視	用具の点検・整備	防災訓練 チャレンジ大会前の健康管理	安全点検整備（校庭） チャレンジ大会前のコース点検整備	安全に関する広報活動 交通委員会
12	事故･災害の防止	冬季スポーツの意義 体育施設・用具の安全点検	現)大気汚染・水質汚濁と公害	化学薬品の取扱いと使用上の注意			冬休み中の諸注意	校外巡視	部室の安全点検	冬季休業前生活指導・健康管理	安全点検整備（普通・特別教室、実習実験器具）防災施設・設備の点検整備	学警連委員会 年末の全国交通安全運動 交通委員会
1	安全な通学	生徒の健康状態把握	(現)日本の社会保険制度)工業生産と公害				始業式	校外巡視	活動場所の安全点検	換気・採光設備の点検検査	火気器具の安全点検	交通街頭指導 PTA委員会
2	事故原因と対策	(保)職業と健康	(倫)現代における自然観と人間観の問題				学校保健委員会	校内巡視	応急手当実技講習	二酸化炭素測定	安全点検整備（施設、設備）カーテン点検整備	安全に関する広報活動 交通委員会
3	安全な生活	安全に対する反省と評価	(倫)人間の原点の問題	(化)炭化水素類の取扱い上の注意			卒業式 終業式 春休みの諸注意	校外巡視	部室の安全点検	活動の反省と次年度の計画立案。春季休業前指導。事故発生まとめ	安全点検 反省と次年度の計画立案 生徒用机・いす防災施設設備の点検整備	今年度活動の反省と次年度の計画立案

② 配慮事項

平成 23 年 3 月 11 日東日本大震災の津波、原発事故、平成 24 年 7 月 11 日九州北部豪雨を始めとして、生命や生活に関わる重大な災害が生徒の身近で起きている。(※東日本大震災後、被災地からの転校生も在籍。)

また、登下校中の事故により、尊い命が奪われるニュースが頻繁に報道される。本校でも、県内広範囲から様々な交通手段で登校しているので、登下校中の安全については交通講話、自転車実技指導、全校集会時の生徒部からの講話等、度々指導している。

生徒も生命、環境、安全、さらに経済ということにまで、どのような選択をするか、身近な生活のありようを考えなければならない。また、継続可能な計画を立てて実行することが、生きた安全教育として重要である。

この考えに基づき、今年度は命と安全の取り組みとして、

ア 6 月に、あいち交通犯罪死 ZERO の会に講師を依頼し、交通講話「命の大切さを学ぶ教室」を開催した。

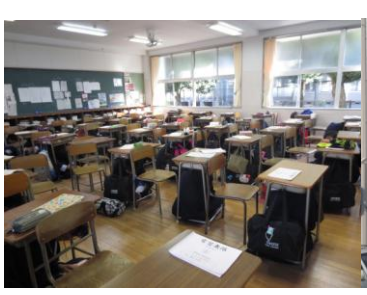
イ 毎月実施している安全点検を、職員や生徒一人ひとりが危機管理意識を持って取り組めるよう問題点と改善策を学校全体で考える。

ウ 防災訓練は、平成 23 年度から、よりリアリティがある訓練をしたいということで、以下のような工夫を重ねてきた。

(ｱ) 必ず全員タオルを準備し、有事時すぐに活用できるよう机周辺におく。(a 口･鼻を覆い有害な煙等を吸わない。b 怪我の時の止血等、救急処置用に使用する。 c 冷やす、暖めるに使用する。)

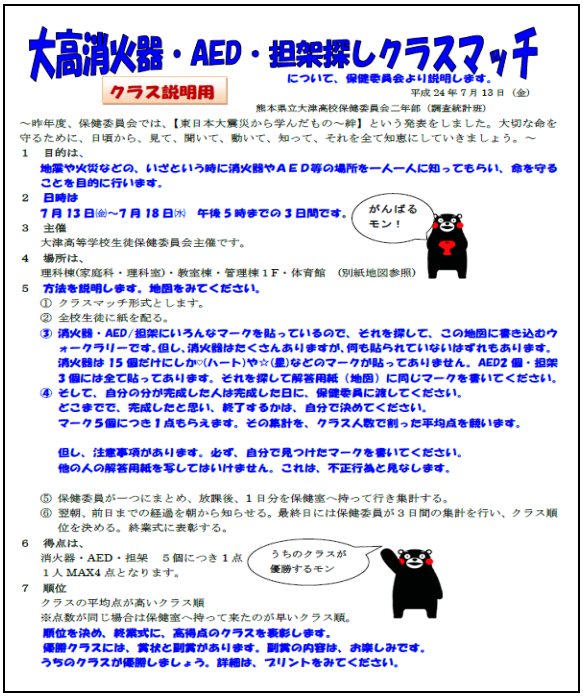
(ｲ) 避難訓練途中で、予告なしに数名の生徒を確保し、生徒掌握、点呼が正確に実施されているか点検する。

(ｳ) 避難訓練途中で、怪我人を複数名作り、担架や車椅子で搬送する。今年度はそれに加えて避難経路に障害物を考える等してより実際に近づく訓練を準備し、より短時間で安全に集合出来るよう工夫を重ねたい。



エ 平成 24 年度は生徒保健委員が自主的に、危機管理の一環として、ＡＥＤ、消火器を探すクラスマッチを行った。今年度は、それをサポートし、全クラス全員参加で行い、緊急時に誰でも対応できるように日常か

ら準備しておく取組を充実させたい。



大高消火器・AED・担架探しクラスマッチ

クラス説明用

について、保健委員会より説明します。

平成 24 年 7 月 13 日（金）

熊本県立大津高校保健委員会二年郎（調査統計班）

～昨年度、保健委員会では、【東日本大震災から学んだもの～絆】という発表をしました。大切な命を守るために、日頃から、見て、聞いて、動いて、知って、それを全て知恵にしていきましょう。～

1　目的は、
地震や火災などの、いざという時に消火器やＡＥＤ等の場所を一人一人に知ってもらい、命を守ることを目的に行います。

2　日時は
7 月 13 日㈮～7 月 18 日㈬　午後 5 時までの 3 日間です。

がんばるモン！

3　主催
大津高等学校生徒保健委員会主催です。

4　場所は、
理科棟(家庭科・理科室)・教室棟・管理棟 1 F・体育館　(別紙地図参照)

5　方法を説明します。地図をみてください。
① クラスマッチ形式とします。
② 全校生徒に紙を配る。
③ 消火器・AED/担架にいろんなマークを貼っているので、それを探して、この地図に書き込むウォークラリーです。但し、消火器はたくさんありますが、何も貼られていないはずれもあります。
消火器は 15 個だけにしか♡(ハート)や☆(星)などのマークが貼ってありません。AED2 個・担架 3 個には全て貼ってあります。それを探して解答用紙（地図）に同じマークを書いてください。
④ そして、自分の分が完成した人は完成した日に、保健委員に渡してください。
どこまでで、完成したと思い、終了するかは、自分で決めてください。
マーク 5 個につき 1 点もらえます。その集計を、クラス人数で割った平均点を競います。

但し、注意事項があります。必ず、自分で見つけたマークを書いてください。
他の人の解答用紙を写してはいけません。これは、不正行為と見なします。

⑤ 保健委員が一つにまとめ、放課後、1 日分を保健室へ持って行き集計する。
⑥ 翌朝、前日までの経過を朝から知らせる。最終日には保健委員が 3 日間の集計を行い、クラス順位を決める。終業式に表彰する。

6　得点は、
消火器・AED・担架　5 個につき 1 点
1 人 MAX4 点となります。

うちのクラスが優勝するモン

7　順位
クラスの平均点が高いクラス順
※点数が同じ場合は保健室へ持って来たのが早いクラス順。
順位を決め、終業式に、高得点のクラスを表彰します。
優勝クラスには、賞状と副賞があります。副賞の内容は、お楽しみです。
うちのクラスが優勝しましょう。詳細は、プリントをみてください。

図２　保健委員会主催　消火器、AED、担架探しクラスマッチ

オ　安全点検

毎月、掃除担当者が行い、保健部で集約し事務部に連絡、すぐに対応・改善を行っている。今年度も、スピード感を持って、全員で点検を行いその結果をすぐに提示し、危機管理意識を高めたい。また、平成 24 年度は、不審者侵入時の対応研修（さすまた研修を含む）を行っていないので、是非取り組みたい。

表１　安全点検

１１月　安全点検　　保健部

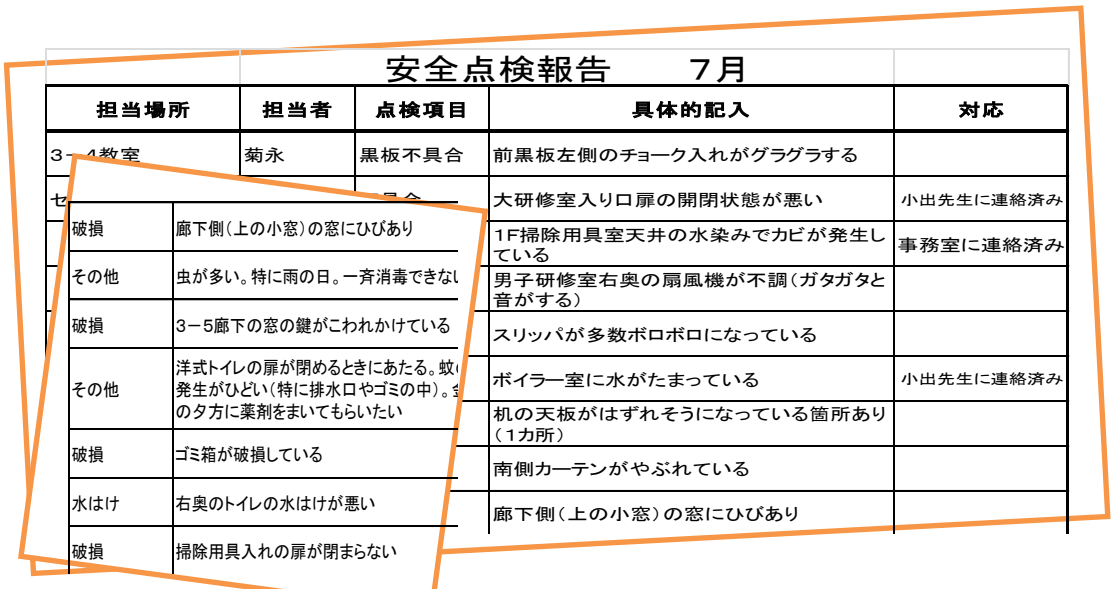
担当者名（　　）担当場所（　　）

点検項目	平成２４年度	
	月　日	対応
床や壁などに危険箇所はないか		済・未
窓枠や窓ガラス等の破損はないか		済・未
出入り口のレール、扉に破損箇所はないか		済・未
スピーカー、電灯等の保全状態は良好か		済・未
机、椅子の破損はないか		済・未
カーテン、ブラインド、レール等の破損はないか		済・未
非常口や非常階段などに不具合はないか		済・未
屋外に危険箇所はないか		済・未
具体的に記入して下さい		

各月末を安全点検週間とし、掃除担当区域の点検をよろしくお願いします。
実施後は堀田のレターケースへご返却ください。
＊カーテン破れの繕い（生物準備室で針と糸貸し出します）
＊蛍光灯の交換（女子職員トイレ隣の部屋にて回収補充）はクラスでお願いいたします。

【学校環境の安全】　学校保健安全法第 27 条
学校においては、施設及び設備の点検を適切に行い、必要に応じて修繕する等危険を防止するための安全措置を講じ、安全な環境の維持を図らなければならない。

【安全点検】学校保健安全法施行規則第 28 条
法第２７条の安全点検は、他の法令に基づくもののほか、毎学期１回以上、児童生徒等が通常使用する施設及び設備の異常の有無について系統的に行わなければならない。



安全点検報告　　7月

担当場所	担当者	点検項目	具体的記入	対応
3－4教室	菊永	黒板不具合	前黒板左側のチョーク入れがグラグラする	
セ		具合	大研修室入り口扉の開閉状態が悪い	小出先生に連絡済み
			1F掃除用具室天井の水染みでカビが発生している	事務室に連絡済み
			男子研修室右奥の扇風機が不調（ガタガタと音がする）	
			スリッパが多数ボロボロになっている	
			ボイラー室に水がたまっている	小出先生に連絡済み
			机の天板がはずれそうになっている箇所あり（1カ所）	
			南側カーテンがやぶれている	
			廊下側（上の小窓）の窓にひびあり	

破損	廊下側（上の小窓）の窓にひびあり
その他	虫が多い。特に雨の日。一斉消毒できない
破損	3－5廊下の窓の鍵がこわれかけている
その他	洋式トイレの扉が閉めるときにあたる。蚊発生がひどい（特に排水口やゴミの中）。夕方に薬剤をまいてもらいたい
破損	ゴミ箱が破損している
水はけ	右奥のトイレの水はけが悪い
破損	掃除用具入れの扉が閉まらない

（3）　食に関する計画と配慮事項

現代の子どもの食習慣には、孤食、個食、固食、欠食という問題がある。そしてそれが、子どもたちの体と心の成長に問題を及ぼし、その指導が必要だと言われる。

本校では、朝食摂取率は９割強であるが、早朝に部活自主練習や課外学習に参加するため、時間の都合で十分な内容の朝食ではない生徒もいる。また、早い時間（午前５時の生徒も珍しくない）に朝食を食べるため、休み時間には持参のおにぎりや、売店でパンを購入し食する姿も見られる。売店のパン約 300 個は放課後までには、ほぼ売り切れる。

昼食は、弁当の生徒が殆どで、昼食時間には、教室を中心に思い思いの場所で友人と食している。２、３人の少人数グループの場合、友人が欠席等でいない時には、他のグループに入り食べる工夫を自分たちでしている。

夕食は部活動、課外等の後、通学に時間を要し、中には午後９時を過ぎて食べる生徒もいる。しかし、パンやおにぎり等は夕食までに間食しても、校内でお菓子を食べる生徒は殆どいない。帰宅に向かう生徒からは、「腹減った。早く帰ってご飯食べたい。」という声が口々に聞こえてくる。高校を卒業すれば、親元を離れ、一人暮らしを始める生徒も多く、命を繋ぐ基本の食の指導は大切である。そこで、次の３つのねらいで食の指導を行っている。

①　ねらい

ア　将来に向けて望ましい食習慣を学び、身につけること。

イ　栄養のバランスや食品の安全性を学び、身につけること。

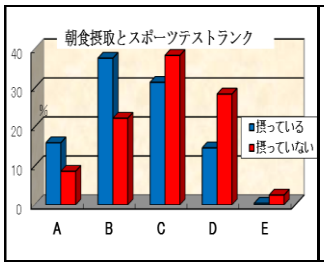
ウ　自然の恵み、それを食べられる形にされた方へ感謝し、命を頂く意味を学び、大切にする心を育てる。

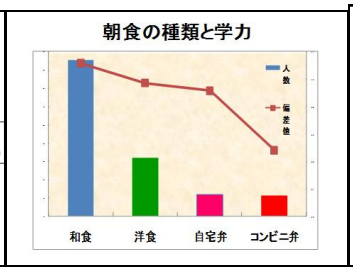
②年間計画　　（平成 24 年度　食に関する計画）

		４～８月	９～３月
教科	国語 「古典講読」	文章や作品に表れた思想や感情を的確に読み取り、生活や人生、食文化について考える	
	地歴・公民	私たちの生きる社会	現代世界と人間としての在り方生き方
	理科 「生物」	物質の科学　　・衣料と食品	生命の科学 ・生物と光　・微生物とその利用
	保健体育 「保健」	現代社会と健康	生涯を通じる健康生活 社会生活と健康 環境と健康　・環境と食品の保健
	家庭 「家庭総合」	生活の科学と文化 ・食生活の科学と文化	生活の科学と文化 ・食生活の科学と文化
	「フードデザイン」	・食事の意義と役割・フードデザインの構成要素	フードデザインの実習
総合的な学習の時間		国際理解、情報、環境、福祉、健康、食などの横断的・総合的な課題についての学習活動	
特別活動	ホームルーム活動	適応と成長及び健康安全 ・朝食の大切さと望ましい食生活　・食生活の見直しと栄養バランス ・定期的な生活時間調査と指導　・能力、脳力を高める食事 環境学習　**・総合学習でフードマイレージ学習（ウ）**	
	生徒会活動	・水分補給の意味と方法 ・ペットボトルキャップ回収とワクチンボランティア活動	**・保健委員会による全校「食に関するアンケート」とピア・エデュケーション活動、研究発表。　（エ）** **・美化委員会による食とゴミ問題と環境問題、研究発表**
	学校行事	・食中毒防止と食品の安全性 ・体育大会と水分・塩分・食。 ・食の講話、講演会 **・合格者召集時、本校アンケート結果を元に、学習と食事の関係について講話（ア）**	・文化祭で食をテーマにした研究報告 ・チャレンジ大会での水分と栄養のとり方。 ・アレルギー調査と食後運動誘発生アナフィラキシーショック防止及び対応学習。
	部活動	**・能力をアップさせ、体を作る食についての講話**	**・家庭クラブで、敷地内の銀杏を使った食品を作り地産地消を学ぶ。**
家庭・地域との連携		・保護者会 ・健康相談 **・PTA 広報誌で継続的な食の指導** ・食事について**保健主事がミニ講話を行う（イ）** ・大学農学部教授による講話 ・ＳＰＰによる理数科の生徒への環境と食に関連した講義。	・銀杏を洗い加工し、**地産地消のおみやげ作り** ・PTA 広報誌で継続的な食の情報交換と指導 ・地域への食の**出前講座** **・地域の祭りの「食のコンテスト（地域特産品からいもを使った食品）」へ毎年出展。** **・チャレンジ大会での、ボランティアの方による地産地消食物の提供、それを保護者の方が調理し、生徒みんなで頂く。** 学校保健委員会

※表中の（ア）～（エ）は、次のア～エで説明。

ア　新入生合格者招集時に、学習と食事の関係について、本校でのアンケートをもとに、朝食摂取が学力にもスポーツにも重要であることを、保護者、生徒に説明し、3年間の基礎的意識を持たせる。





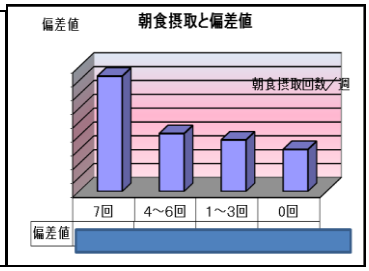
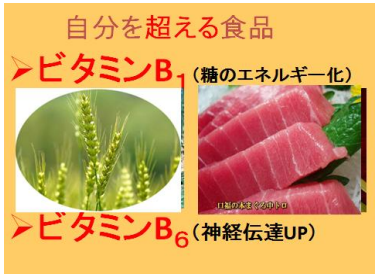


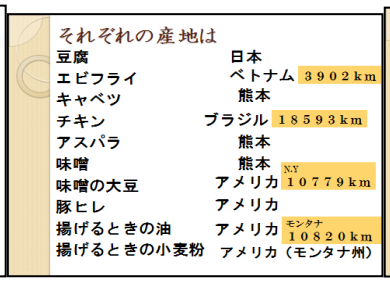
図３　朝食とｽﾎﾟｰﾂ　　**図４　朝食の種類と学力**　　**図５　朝食と偏差値**

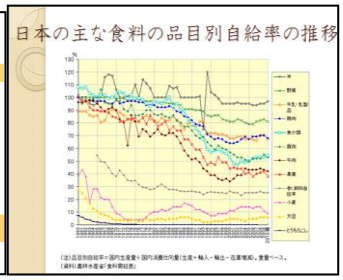
イ　教務部、進路指導部、家庭科と連携して、生活時間調査や各種アンケート結果を資料として、集会時の講話や授業を通して食と学習の関係を学ぶ機会を設けている。



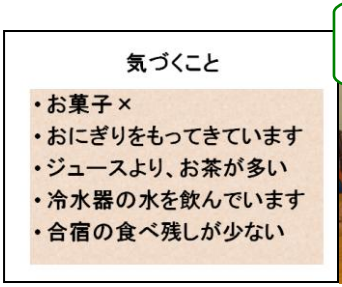
【受験期の食事】の指導時には、脳力をアップさせる食事をテーマとして指導している。

ウ　総合学習（全校一斉）時に、フードマイレージ学習等を通して、食と生き方の問題を学ばせる。食べ物を頂く意味を考えさせる。





エ　生徒のピア・エデュケーション活動を、食に関する教育でも取り組んでいる。保健委員会が自主的にアンケートを作成し、文化祭や、学校保健委員会、全校集会で発表し、全校生徒の意識向上につながっている。



保健委員役員会でアンケートを分析中。

③　配慮事項

ア　早朝から夕方遅くまで部活や課外を行っているので、しっかりした体作りに、より取り組まなければならない。そのためには、食の指導を充実させる必要がある。家庭科、教科保健、体育科、部顧問、養護教諭のチームで、家庭と連携をとりながら取り組みにあたりたい。

イ　さまざまな機会を捉えて、食の指導を行っているが、生徒の行動変容に結びつけるためには、実態に即したものでなければならない。
そのためには、今より少し意識を持って行動することでこれだけ進歩した、というデータを取りその変化を提示しながら、少しずつ経験を積み重ね、実感させる取組を計画したい。

3　健康教育の推進体制

（1）　教職員の推進組織

①　推進組織

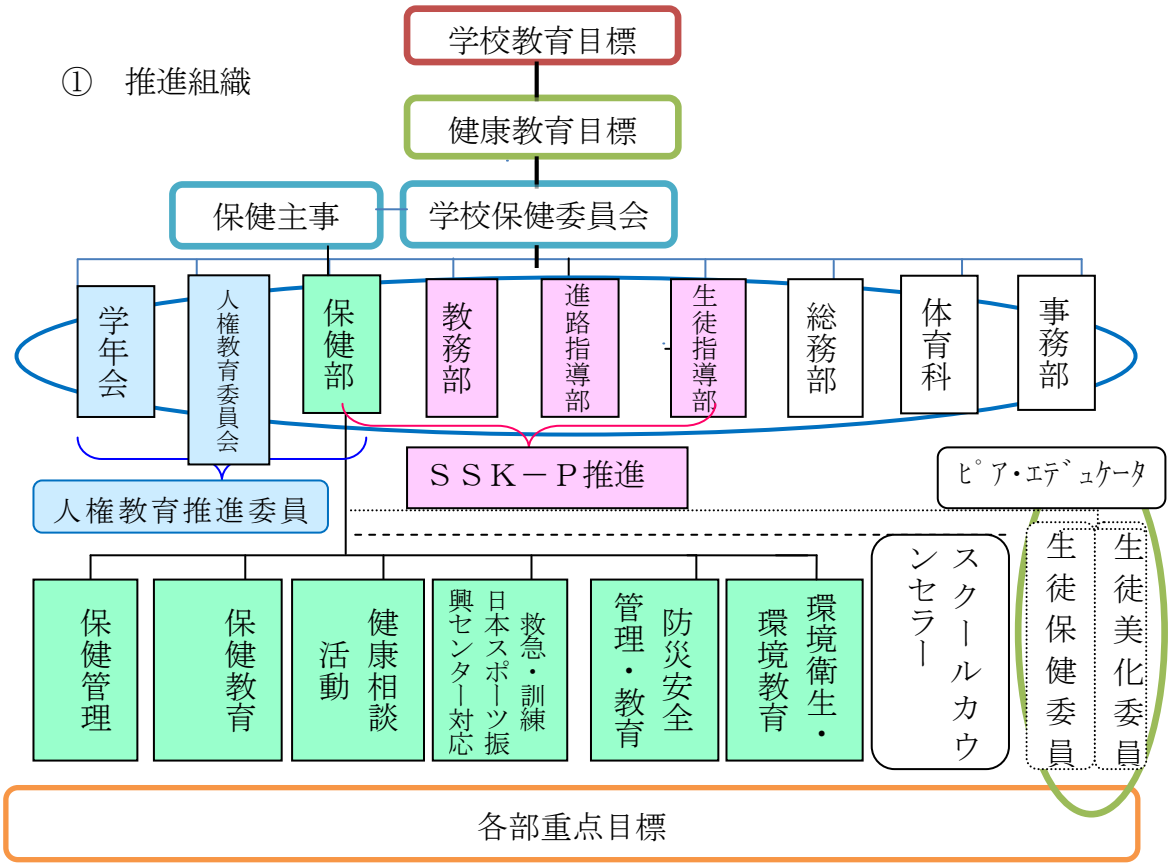


図６　推進組織図

ア　学校教育目標を受けて健康教育目標を立てる。その具現化のために、保健主事が中心となり、学校保健委員会を通して、保健部が各係で計画を作成し、職員会議で承認され、実際に活動を行う。

イ　保健部は、10 名のスタッフ（活動をしやすくするため、教科、学年

が異なるように工夫）で編成され、各係の仕事を行い、原則週１回の部会で情報交換と各案を練り、実践に結びつけている。

なお、学年会に養護教諭２名は分担して参加し、情報収集と提供を行い、それを保健部会で情報共有し、生徒の状態や各組織の動きの把握を行い保健部の活動につなげている。

ウ　特に保健部が推進強化を行っているものに、人権教育推進とSSK-Pがある。それぞれの連携組織と共に、よりよい取組となるよう推進を図っている。

エ　本校の特徴的な推進体制に、生徒保健委員会、生徒美化委員会が、ピア・エデュケーターとして組織されている。『生徒の日常的な気づき』から、本校の健康課題を発見し、保健部でそれを検証し、実践計画を立てる取組を行っている。これにより、生徒のまわりを見る力、伝える力、考える力、実践力の向上を図り、それが次年度へと伝えられ、少しずつ、動く強い組織へと成長している。

② 校内研修

校内研修は、学校教育目標である「凡事徹底～当たり前のことを当たり前にできる生徒の育成」を健康教育の視点からアプローチした『「からだ」「こころ」「環境」を整える』をキーワードに、年間行事に位置づけ、様々な機会を重ねて実施している。主なものは下記表のとおりである。

表２　校内研修

時期	内容
４月	掃育としての掃除の仕方研修
５、12、２月	グループ守秘義務研修を含めた生徒理解研修
６月	【食の問題】に取り組む環境教育を企画するための研修
７月	不登校、気になる生徒についての研修
７月	ＡＥＤ／救急法研修
８月	自然災害や不審者侵入時の対応研修
９月	こころの教育【「ありがとう」や「いのち」の教育】

また、『「からだ」や「こころ」を整える』ことについては、マス・メディアや、公文通達などの健康情報をスピード感を持ってなるべく早く提示し、生徒の実態に応じて全職員が早い気づきを持って対処し、教育活動に生かせるように職員朝会や放送、プリント対応等を行っている。

『環境を整える』ことについては、学習環境を整えるSSK-P（Study Space Keeper plan）研修や、保健部作成の『掃除の方法』のスライド研修を行い、『職員トイレ掃除実習』を実施して、実際に生徒の指導にリアル

感を持って役立てられるよう工夫している。

（２） 健康相談の活動状況

① 年間計画に組み入れ、健康問題を多角的に捉え、身体的な健康の視点からだけでなく、心や精神的要因、家庭等の環境要因や発達状態も併せて考え、広い視野からの問題解決に当たるように努めている。

② 実施体制

組織連携活動として、校内外と連携し早期発見、早期対応を意識して行う。

○学校医、学校歯科医、学校薬剤師 ○専門医療機関、専門相談機関、 ○校内組織　：人権教育委員会、スクールカウンセラー制度・保健室 ○地域保健所、保健師、ソーシャルワーカー

ア　各行事前、日常的な健康相談活動（生徒・保護者・職員）の状況宿泊研修、体育大会、修学旅行、チャレンジ大会（42.195km の持久走大会）前、部活動の大会前には健康調査を行う。その結果、健康相談を要する生徒の家庭に連絡し、学校医と連携して健康相談を行う。運動制限や日常生活で注意することを届け出用紙に記載し（金銭的負担を考慮して学校様式で）提出している。これに基づき、全職員が注意して観察し、事故がないように気をつけている。

日常的には、保健室問診票を使用し、丁寧な問診を心がけ、生徒の訴えの原因を生徒と共に考え、改善策を考えていくことに力をかけている。

イ　本校では、教育相談体制組織として、人権教育委員会、スクールカウンセラー制度があり、連携をキーワードにチームとして動くことを意識して相談活動を行っている。

③ 生徒の把握

ア　担任が行う【健康観察】と養護教諭との連携

生徒の健康状態を知る基本は、【健康観察】である。毎朝、担任が健康観察を行い、２時間目の休み時間までに、その観察簿を保健室へ提出し、それを見ながら生徒の情報交換を行っている。これにより、感染症発生の発見、対応、保健指導が早期に出来ることはもちろんのこと、「何か変だ」という気づきが生まれ、生徒の様々な悩みへの対応が早期に出来るようになっている。そして、その生徒によく関わっている担任、養護教諭、学年主任、等が小チームとなり、チームで話し合い対応に当たる体制をとっている。

これにより、生徒の問題解決に向けて複数の教師が多角的な視点から考えることで、教師自身もチームに相談しながら、心のゆとりを持って

生徒の対応ができるようになっている。

健康観察簿は、Ａ４版一枚に一週間の記載が出来るようにしている。それを、学年毎に色分けしたファイルに綴る。記載しやすく確認しやすいようにカラー印刷を行い、担任と保健室が、自由にコメントをかけるように余裕を持った作りとしている。

全員揃った日には笑顔の顔文字と共に、「今日はみんな元気です！」や、「朝から声にも元気なく心配です。」等が担任から記載され、養護教諭もその返事を記入したり、また、その記載から、教室へ様子を見に行ったり、保健委員からクラスの様子を聞いたりと情報を得て、担任とその生徒について話しが出来、情報の共有化が図られ、ネットワークづくりの重要なアイテムとなっている。

そして、**日常的な担任による健康観察→保健室→学年会・管理職→学校全体へ**という流れで、学校全体の健康相談が必要な生徒の把握につなげている。

イ　職員研修【生徒理解研修】・気づきメモ

心身の健康に配慮を要する生徒は、繰り返し全職員で共通理解ができるよう、「生徒理解研修」として年間計画に盛り込み、職員研修を行っている。また、それ以外にも随時、学年会、朝会、職員会議などで、遅れることなく必要な支援が行えるよう、グループ守秘義務の元、共通理解を進めている。この時大切なことは、生徒の気になる様子を「気づく」ということである。そこで、生徒の学校生活の様々な場面での様子を、全職員で実態把握し共有することにより生徒の理解を進め、指導の充実へつなげることを目的とし、「気づきメモ」が導入された。これらを活用しながら、多角的に生徒を捉え、理解をし、的確な指導が出来るように工夫を進めている。

【気づきメモ】

(ｱ)　教科担当者や掃除、部活動、委員会活動等全職員が様々な関わりの場面で気づいたことをメモし、生徒の様子をより多角的に把握できるよう、職員室に教頭席後方に「気づきメモ」入れを置く。

(ｲ)　全職員は気になる点だけでなくプラス面での気づきも記入する。

(ｳ)　特別支援が必要な生徒については、それぞれの教育的ニーズに応じた支援の検討につなげていく。

(ｴ)　このメモのまとめは人権教育委員会で行い、学期ごとの生徒理解研修や職員会議等で情報の共有化を図り生徒の支援につなげる。

ウ　人権教育委員会

(ｱ)　構成メンバー：特別支援教育コーディネーター・人権教育支援部長・教頭・主幹教諭・学年主任・各学年代表・進路指導主事・教務部長・保健主事・養護教諭

(ｲ)　機能：週１回を基本として定期的に委員会開催。各学年から生徒の状況を報告し情報の整理を行い、気になる生徒の支援について協議し組織で支援を行う。ここで全職員への周知が必要とされたことは職員会議に提示され、具体的な対応へつながる仕組みとなっている。

エ　スクールカウンセラー制度

(ｱ)　臨床心理士１名（中高大学のスクールカウンセラー、病院勤務経験）

(ｲ)　面談日　隔週木曜日午後１時半～５時半
３件の面談が出来るように時間を組んでいる。

(ｳ)　申し込みシステム

保健室で受け付けている。その受付方法は、まず４月の入学式、始業式で生徒に、５月のＰＴＡ総会で保護者に、スクールカウンセラー制度について説明し周知する。次に、学校内では、月の予定表（生徒に配布されるもの）にスクールカウンセラー来校日を記載し、カウンセリング２～３日前には申し込みの空き状況を朝会で生徒と職員に連絡する。合わせて保護者にも、ＰＴＡメールを使って、カウンセリング日と申し込みの空き状況を知らせるというシステムになっている。これにより、申し込みはほぼ毎回空きがなく、生徒だけでなく保護者の相談申し込みも多い結果となっている。

(ｴ) 場所

保健室の近くで生徒の目に触れず、外部からもスムーズに出入りしやすい位置にカウンセラー室を配置し、優しい花柄のカーテンで周囲

を飾り、ソファー、湯茶セット、ぬいぐるみ、花等で心地よい空間となるように工夫している。生徒を健やかに育てるためには、まず、家庭を居心地よい安心できる場所にすることが必要であり、保護者の相談は、連携して生徒を育てることにつながり、よい結果を及ぼしている。同様に教員の相談もあり、一人で抱え込まず、チームで生徒に対応し教育することに寄与している。

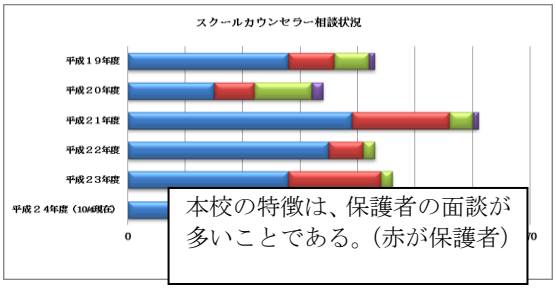


図７　スクールカウンセラー相談状況

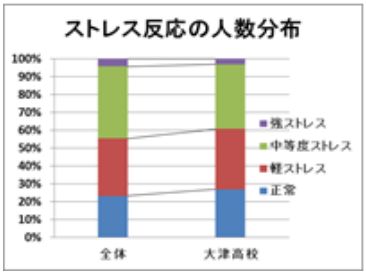


図８　ストレス反応結果

このように、人権教育委員会、スクールカウンセラー、養護教諭、そして家庭が連携しながら、生徒の健康相談に当たっている。

またこの連携の中で、医療機関や公的機関との連携が生徒にとって必要な場合は、速やかに対応するように取り組んでいる。

このような取り組みの成果か、九州大学が本校生のストレス度を調べたが、全体と比してストレス度が低いことが分かり、早期に相談対応に当たることが大切なのが分かる。**（図８参照）**

（３）　保健指導の活動状況

集団保健指導は全体年間計画に位置付け、LHR、総合学習の時間、各行事前や、特設の時間に実践している。日常的に、感染症やこころの問題、環境問題等はタイムリーに、放送や担任の SHR 時指導、保健便り、PTA メール等により、生徒や保護者に情報を発信し指導を行っている。また、全校集会や保護者会では、必ず保健主事が保健指導の時間として話している。

保護者作成の学校広報誌には、健康に関する記事を載せる欄が設けられ、毎回様々な情報を発信することができている。

個別指導としては、プライバシーに配慮することを心がけ、面談連絡メモを担任より他の生徒に分からないように渡し、指導は、面談コーナーや、カウンセラー室を使うなど気をつけている。

①　集団保健指導

ア　年間 LHR 計画に位置付けた保健指導（年間４時間）

・　**こころの教育**

「いのちの教育」「ありがとうの教育」等、全学年一斉 LHR の形で体育

館にて、保健部が主査となり毎年企画から手作りで行う。この時間は生徒の身近なことを題材として展開するため、生徒がこころに温かい気持ちを育てる時間となっている。

・ **ボランティア清掃活動**
大津町と連携し、学年別に大津町内のボランティア清掃活動を行う。特に、駅や公園等の公共施設のトイレ掃除を行うことで、自分と向き合い達成感を得ると同時に、思いやりや公共心が育つ。

・ **WYSH 方式で行う教育**
性に関する指導を中心に、危機管理予防教育と共に、将来への希望教育として行っている。

イ　総合学習で行う保健指導
・　「環境教育」として広い視野から生活と行動を考え、これからの生き方に結びつける。

ウ　各行事前の保健指導
・　健康診断前保健指導
・　体育大会、チャレンジ大会、修学旅行前、受験前保健指導

エ　全校集会時の保健指導

オ　保健便り、保健室便りによる保健指導

カ　放送による保健指導

② 個別保健指導
・　健康診断事後措置、各種健康調査後、心身の事例に応じて指導

③ 保護者保健指導

ア　PTA メール、PTA 新聞を通じての保健指導

イ　保護者会での保健指導

（4）　児童生徒の健康状態の把握と対策

〇生徒の健康状態を早期に的確に把握すること
〇学校全体でその状態を把握できること
〇対応を遅延することなく早期に行うこと
〇一人で対応するのではなく、チームで対応すること
〇家庭、医療機関等と連携をとることを基本として取り組んでいる。

① 日常体制

ア　健康観察：担任→保健室→学年会・管理職→学校全体への流れで行う。
担任は SHR 時にクラス全員の健康観察を行い、それを保健室に提出する。→養護教諭は健康観察簿を直接手渡しで受け取る。→担任との直接コミュニケーションをとれることで、生きた多角的な情報交換となる。→養

護教諭は全校の健康状態を把握し、必要な対応をコーディネートする。→組織活動へとつながる。→生徒の変化への気づきとチーム編成などの手だてが出来、生徒の健康問題へ早期対応が出来る。

イ　保健室来室の記録：自分で体温等を図りながら症状や生活の様子を記入し、それを元に養護教諭と共に、原因、対応策、繰り返さないための改善策を考え、自己決定、自己管理を学ぶ。

ウ　保健室来室カード：養護教諭が保健室での様子と養護診断を記入する。保健室を利用した生徒が、自分の所在を明らかにし、担任、教科担任に健康状態を知らせ、対応してもらうためのもの。

午前中に来室した生徒は昼休みまでに、午後は終礼までに生徒が直接、担任に持参し報告する。教師は、これに基づき生徒と健康状態について話し連携をとった指導につながる。生徒自身は、自分の体調を知り、自己管理の大切さを学ぶ効果がある。

エ　生徒保健委員会活動：朝の健康観察後、また、掃除時間に保健委員は集合するので、その時を中心としてクラスの状態を養護教諭が聞く。生徒の目線での情報収集が出来る。情報の確認、整理が必要であるが、教師がみていないところでの健康状態を知ることが出来る。また、クラスの健康管理を行う保健委員としての意識の向上にもつながる。

オ　学校保健安全法に基づく感染症罹患による出席停止カード

感染症に罹患し出席停止の措置となった場合は、学校所定の用紙を医療機関で記載してもらい提出する。これにより、正確に感染症の罹患状況を把握でき、学校全体の予防につなげている。

カ　日常生活管理表

各種検査後、ご家庭より所定の用紙で提出されたものを、担任が受け取り、コピーを保健室で管理する。生徒理解研修で職員に知らせ共通認識を持つ。また、各種行事の時には必ずこれを確認して、事故がないように管理指導する。

② 各種行事前の健康調査と事前健康診断・健康相談

ア　各種調査

(ｱ) 健康カード、心臓病調査票：入学時に既往症、体質、配慮を要すること等について、保護者が記入し提出する。在学中、注意を要することについて、養護教諭が付記する。

(ｲ) 体育大会前、修学旅行前、夏・冬期休業後、チャレンジ大会前にそれぞれ、調査用紙にて生徒に記載させ、健康相談が必要な生徒を把握し対応する。

③　災害時（自然災害・事件・事故に遭遇時）の体制
本校危機管理マニュアルに沿って、健康状態を把握し心のケアを行う。

（５）　学校医・学校歯科医・学校薬剤師の活動状況

		主な活動内容	出校回数
学校医	内科	生徒定期健康診断、職員健康診断、行事前健康診断、健康相談、学校保健委員会	６回
	眼科	生徒定期健康診断、健康相談、学校保健委員会	４回
	耳鼻科	生徒定期健康診断、健康相談、職員健康診断、学校保健委員会、衛生委員会	７回
学校歯科医		生徒定期健康診断、健康相談、学校保健委員会	４回
学校薬剤師		プール水・水道水水質検査、ダニ検査、【薬物乱用防止教室】講師、【薬を学ぶ】講師、健康相談、環境衛生相談活動、学校保健委員会、衛生委員会　薬品保管状況調査指導	８回

①　定期健康診断　　：４月に事前打ち合わせ。実施後、健康状態のみならず、生徒の状況の気づきや実施方法について反省会。
②　健康相談　　：事前打ち合わせ後、指導資料等も準備して対応。
③　学校保健委員会　：毎回全員出席。全員発言され活発に協議。
④　衛生委員会　　：定例会だけでなく、突発的な会にも対応。
⑤　環境衛生活動　　：感染症、虫など様々な事態にも迅速に対応。
⑥　講演会活動　　：実験を組み込み生徒が集中して真剣に聞く。
⑦　職員検診　　：１学期末試験中に受診予定を組み病院で検診。

出校状況は表のとおりであるが、この他、年間を通じて、症状がある生徒への指導方法や感染症予防について、学校で指導できるよう資料を準備するなどの日常的な活動も度々行われ、該当の生徒のみならず、学校全体の健康教育が行えるよう取り組まれている。

（６）　校舎内外の環境衛生管理状況

①　校内安全点検→事務部の先生による迅速な改善体制
②　日常的な水道水、プール水の管理
③　学校薬剤師による環境衛生検査（水道水、プール水）
④　ダニ・ホルムアルデヒド等の検査

⑤　生徒保健委員活動としての清掃状況、照度、騒音測定

⑥　熊本百景に選定された緑が溢れ、古木が生い茂る校庭の管理

→生徒有志による落ち葉、銀杏の早朝からの清掃活動、毛虫・蚊の発生を防ぎ迅速な対応をする。

→エコ活動；集めた落ち葉は、腐葉土として花壇に入れ、銀杏は、事務部で加工して来校者へのおみやげとなる。

（７）家庭・地域との連携状況

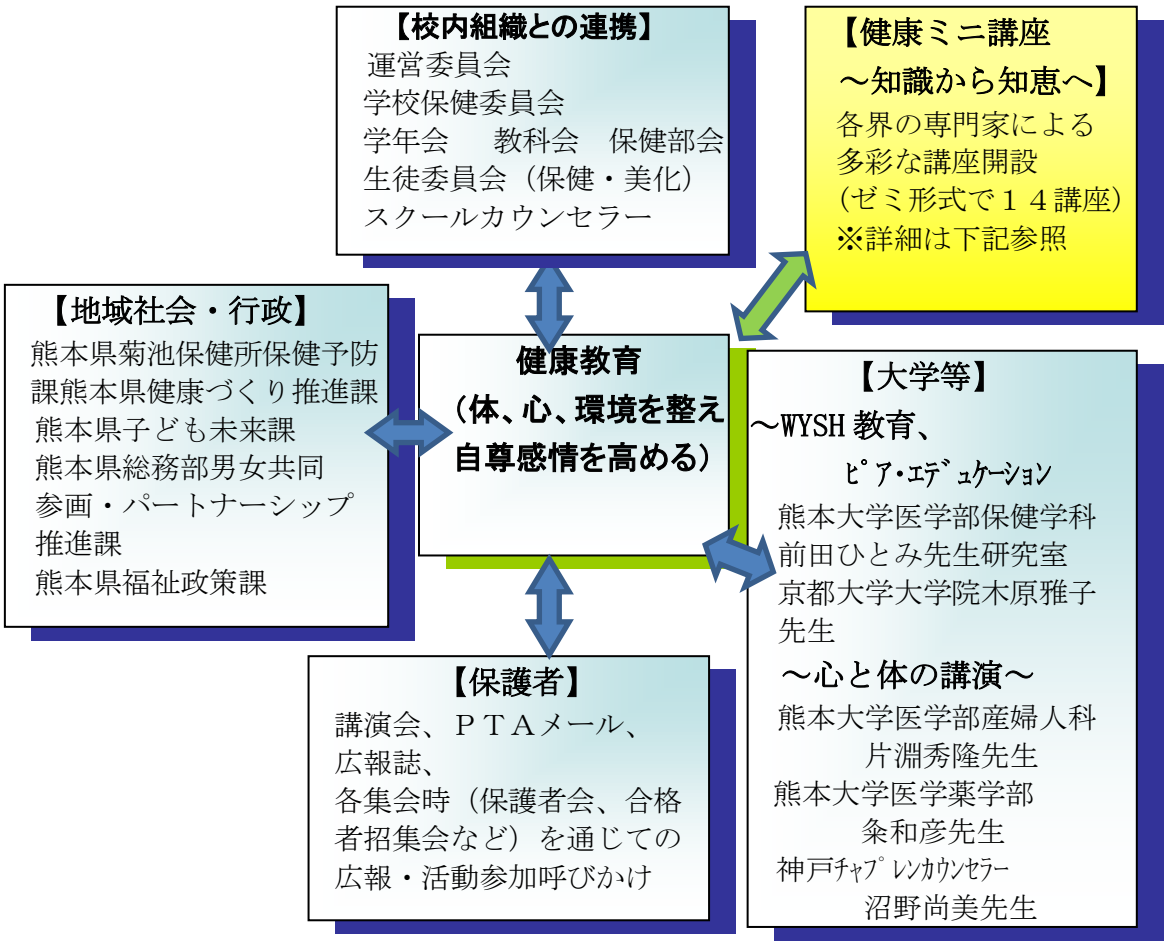


図９　連携組織図

生徒の学びの心に火が点り、スイッチオンする箇所は、生徒それぞれで違う。そこで、より多角的な成長スイッチを得て、人間力を育てるために、連携に力を入れている。家庭・地域社会・専門家と連携を図り、生徒の実態に応じてＬＨＲや総合学習、あるいは健康教育行事で取り組み、事前事後のアンケートや感想文で生徒の変容と、連携の効果を評価している。

さらに、平成２４年度からは、年間を通じて【健康ミニ講座～知識から知恵へ】を開講し、様々な分野から専門家を招き、ゼミ形式で知的好奇心を刺激

し、知恵にしていく取り組み等を行っている。

【連携による取組①】

大津高等学校『健康ミニ講座～知識から知恵へ』

1　目的　今日生徒を取り巻く社会環境はめまぐるしく変化し、健康課題も山積している。感染症予防、安全教育、性の問題、薬物乱用防止、食育、生活習慣病、交通安全、環境問題など様々である。これらの健康課題に対して知識を得、それを生きる知恵にし、健康で安全な生活の出来る資質や能力を学ぶために、さらに進路実現の学習としてこのミニ講座を開く。

2　期間　　平成２４年９月～平成２５年３月
放課後の時間帯（水／金を中心として 50～60 分間）

3　対象　　希望者（学年を問わず進路目標を含めて、事前に広報し開講する。）
※項目毎、連続参加可。参加者はどの講座も約 30～40 名となった。

4　形式　　少人数学習の連続（T-T 含）

5　場所　　会議室・セミナーハウス

6　内容

表３　健康ミニ講座一覧表

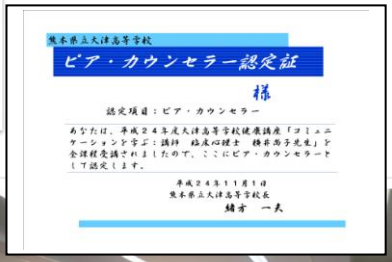
	項目	内容	講師
1	感染症を学ぶ	ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ・その他の感染症	菊池保健所医師
2	性の問題を考える	STI・妊娠中絶・交際	菊池保健所保健師
3	薬物乱用を考える	実態と対応法	菊池警察署警察官
4	薬を学ぶ	効果と危険性、使用法	学校薬剤師
5	環境問題を考える	植物研究をとおして	東海大学農学部教授
6	食の問題を考える	食物の選び方・安全・食事	保健所管理栄養士
7	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを学ぶ (5 回) 【ピアカウンセリング入門】	気持ちの伝え方、理解の仕方 ①“相談事を聞く”と言う事 ②自分を知る。相手を知る（１） ③自分を知る。相手を知る（２） ④カウンセリング実習（１） ⑤カウンセリング実習（２） 【グループエンカウンター活動】（ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲ等を通して実際に練習）	臨床心理士　横井尚子先生
8	生まれる命･繋がる命	妊娠・出産・人工妊娠中絶	熊本大学医学部教授
9	救急法を学ぶ	心臓ﾏｯｻｰｼﾞ、AED、外科処置	熊本赤十字病院
10	排泄を学ぶ	食物の消化・排泄の大切さ	養護教諭
11	疾病を学ぶ	症状・見方のﾎﾟｲﾝﾄ・手当	養護教諭
12	食を学ぶ	学力、運動能力を伸ばす食	養護教諭
13	睡眠を学ぶ	睡眠の効果・睡眠障害	養護教諭
14	マナー講座	気持ちのよい人との接し方	ホテル日航社員（大津高 OB）

7 成果　　※日程の都合で開講できない講座もあった。H25 年度も取組予定。

①少人数学習講座の連続であるので、相互に質問や協議を行うことが出来、講

義で学んだ知識を身につけやすく、日常活動で実践しやすい。
②自分の興味関心を確認する機会となり、進路を決める時の資料とすることが出来、よりしっかりとした進路選択が出来る。
③外部との連携により様々な視点からの健康問題に気づき、考える力をつける事が出来る。

ピアカウンセラー講座、全五講座を受講した生徒には、【ピア・カウンセラー】としての認定書が贈られ、自分のコミュニケーションスキルアップだけでなく、友達の悩み相談活動を行うことにつながる。生徒達はとても楽しく学び、かつ、自分を知ることで、適正な進路選択の資料ともなる。



【連携による取組②】

思春期保健セミナー『ピア・エデュケーション（教育しあう仲間）学習活動』

1　目的　熊本県健康つくり推進課思春期健康教育事業（ピア･エデュケーション：教育しあう仲間）と連携して行う。

①　コミュニケーションの取り方について、実際に経験しながら学び、日常の人間関係つくりに役立てる。

②　生や性の大切さを思春期の高校生に伝え自尊感情を高め、性感染症や人工妊娠中絶を減少させることを目的とする。

2　サポート　熊本大学医学部保健学科教授　　熊本大学医学部保健学科学生
熊本県菊池保健所

3　内容　①コミュニケーションスキル
②自尊感情をアップさせる方法

③生と性を学ぶ

4　連携体制

生や性に関する思春期保健の課題解決のため、熊本県、管内保健所（菊池保健所）が企画し、熊本大学医学部保健学科教授が考案されたプログラムに基づき研修を受けた生徒が、大学生とともに自分のクラスで授業を行う。これにより、より身近な問題として生徒が本音で課題解決に効果的に取り組むことが出来る。

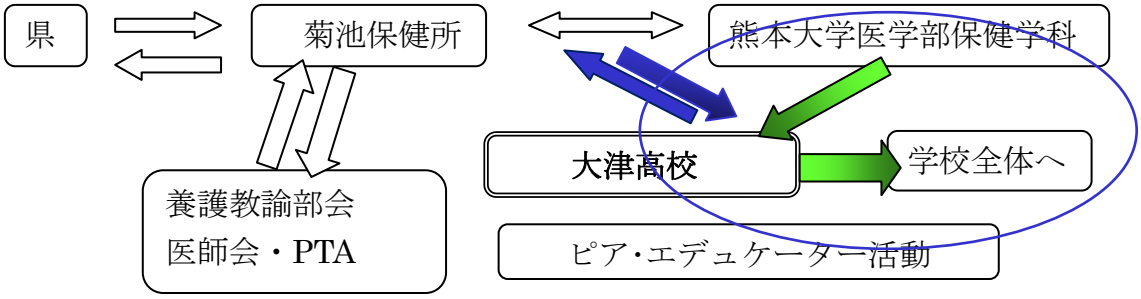
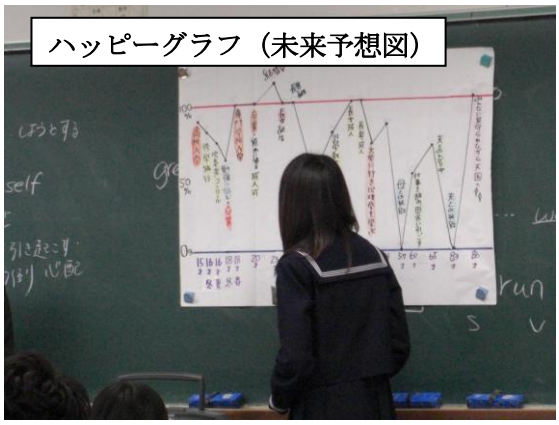


図 10　連携図

	プログラム	ねらい	準備	指導上の留意点
導入 3 分	自己紹介	雰囲気づくり		
展開 15 分	価値討論 （15 分） ・記入 （3 分） ・話し合い （10 分） ・まとめ （2 分）	･一人一人の価値観が違うことを知る。 ･お互いの価値観を認めながら、自分の価値観も大切にしてほしいことを伝える。	プリント	【価値討論】いくつかの候補の中から何が大切か、そう思う理由を個々で考えて順番をつけていく。それをみんなで話し合い、同意を得て順番を決めていくといったエクササイズ。これを通じてものに対する価値観が人それぞれであること、またそれを他の人に納得してもらうためにどのように表現したらよいかを考える機会となる。途中のプロセスを振り返ることによって、人との交渉における自分の傾向を知るきっかけとなる。
27 分	ハッピーグラフ (もし、妊娠したら・・) （27 分） 説明(5 分) 記入(15 分) ｸﾞﾙｰﾌﾟ内でｼｪｱ（7 分）	高校入学から現在を振り返り、将来どうありたいかを実際にグラフにすることで、客観的に将来を見つめる。 また「今、妊娠してしまったら」のグラフを書くことで、現在の生活や将来がどう変わってしまうかを考える。 今、一番しなければならないことは何か、避けられることは避けなければならないことを伝える。	プリント　色ペン ハッピーグラフの例	【ハッピーグラフ】 自分がどのように高校生活を送ってきたかを振り返り、発表し合うことで、自己理解、自己開示、他者について理解を深めるきっかけとなる。また将来を考える。そして、もし今妊娠したらどうなるかを考えることにより、様々な予期しない出来事を自分のこととして考えるきっかけとし、今何を自分がすべきかを考える機会とする。
まとめ 5 分	ファシリテーターによるまとめ	それぞれの価値観を認め自分を表現しながら上手に付き合っていくにはどうしたらよいか、どう生きていくべきか考えることを確認する。		一人一人の生徒の表情に注意し、自己理解、他者理解を進め、人を受容する姿勢を促す。


ハッピーグラフ（未来予想図）

【実際にピア活動で LHR に取り組んだ生徒の感想】

今回、高校でピア・カウンセリングをしてみて私はとても良かったと思いました。初め、本当に大丈夫かな、私は人前で何かするのは得意ではないし・・・と不安ばかりでした。でも、いろんな人にピア・カウンセリングのというものを知ってもらいたいと思ったので、頑張ってみようかなと思いました。

でも、ピア・カウンセリングのメンバーの雰囲気とクラスの雰囲気は真逆と言ってもよいほど違うので、不安な所はたくさん残っていました。

しかし、実際にみんなにピアネームを書いてもらった時に、とても楽しそうにピアネームを考えてくれたので、それですごく安心出来た気がしました。

当日も緊張はしたけれど、大学生のみなさんが「大丈夫だよ」と言ってくださったので、すごくリラックス出来ました。そして、授業中もみんなが本当に真剣に聞いてくれたことがすごく嬉しかったです。大学生のインタビューにもきちんと答えてくれたし、価値討論やハッピーグラフも、ピアのメンバーでやった時とは違う新しい意見を聞くことが出来たり、見ることが出来たりして、本当にいろんな考え方があり、ものの見方が一人一人違うのだと思いました。

今の社会の中で私たちは人と合わせることに慣れてしまって、自分の意見をなかなか出せない人が沢山いると思うけど、このようなことをすることで、多分みんな気づいていないけど、本当の自分が出せているではないかと思いました。

今回のことで、私自身成長出来たと思います。それは自分でも分からないくらい小さな成長だと思うけれど、そう思い感じます。そして、クラスのみんなも何か少しでもいいから、感じ取ってくれたらいいなと思います。そして、もっと多くの人にピアを知ってほしいと思います。

【連携による取組③】

1　保護者広報委員会との連携（PTA 新聞）

定期発行 PTA 新聞（平成 24 年度文部科学大臣賞受賞・地元新聞社主催コンクールでグランプリ受賞）に健康教育が出来るコーナーが設けられ、保護者が聞きたいテーマを受けて、伝えたいことが伝えられるようになっている。この

広報誌「いちょう」は、学校ホームページにもアップされ、紙面だけでなく、どこからでもアクセスして読める仕組みとなっている。

2　学校保護者会・地域保護者会での校内外講話と協議

「食や生活習慣と学習やスポーツ、心の関連性」について、保健主事、生徒指導主事、部顧問等が講話や講演活動を行い家庭での取組へとつなげている。

3　大津町幼小中高連携研修会での取組発表

７月に、大津町の幼少中高校から教職員と行政関係者が集まり、各学校の様々な取組について発表し連携を図っている。保健関係の取組についてもここで発表している。

4　保健委員会の活動

（1）　学校保健委員会

①　目標

生徒の心と体の健康情報について、客観的な根拠に基づく資料を提示し、様々な立場から協議することで課題を明確にし、その課題解決に向けて、チームで方策を見つけ出していくことを目標とする。

②　構成

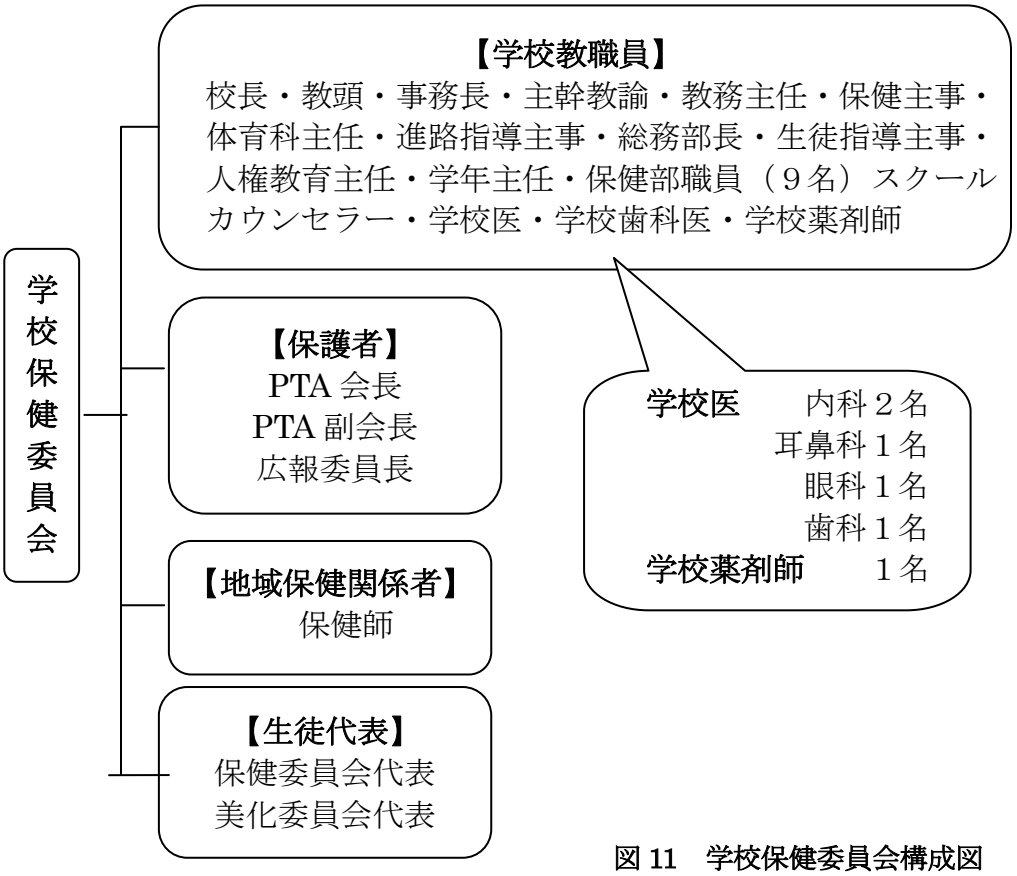


図 11　学校保健委員会構成図

学校保健委員会は毎年１回の全体開催であるが、学校医（内科２名、耳

鼻科・眼科・歯科各１名の計５名）・学校薬剤師が毎年**全員揃われ**、欠席者なく行われている。
何よりも、多忙な学校医・薬剤師が、必ず全員出席されることが、**チームとしてのまとまりの意識と**なり、それにより課題解決に向けての意識も強いものとなっている。

③　計画・運営

保健主事が中心となり、学校管理職（校長、教頭、事務長）、養護教諭と相談しながら計画する。その内容は、前年度末の年間反省を元に、保健管理、保健教育、組織活動のそれぞれの分野から、健康教育目標に沿って、生徒の心と体の状態をよりよい方向に進められるように、活動内容の検討を行い、柱とする計画を進める。
運営は、保健主事が養護教諭と相談しながら、保健部全体で行う。保健部員は、各係の仕事分担に沿い、主体的に工夫しながら準備、運営を行う。

ア　特に配慮している点

内容は、学校が用意した資料（定期健康診断結果、新体力テスト結果、受診状況、健康相談状況、学校環境衛生検査状況、保健室来室状況、生活調査結果、進学状況等）をスライドや動画にまとめ、短時間で共通認識がしやすいようにプレゼンテーションした後に、課題解決に向けて協議することに力を入れている。

会議では、必ず一人一回は意見が言えるようにしている。例えば、小グループ（学校医グループ、管理職・保護者グループ、主任主事グループ）に分かれて、資料に基づき討論の後、全体会で意見のシェアを行い、課題解決に向かうなど工夫している。

コンパクトだからこそ、内容の濃いものにするために、会議方法に工夫を重ねている。

【学校医･学校歯科医ｸﾞﾙｰﾌﾟ】【主任主事ｸﾞﾙｰﾌﾟ】【保護者・管理職ｸﾞﾙｰﾌﾟ】に分かれ同じ資料を使いそれぞれの視点で協議し全体会で報告、共有する。

表４　学校保健委員会協議内容

議題	主な出席者	時間	主な成果
①新体力テスト結果と身体測定結果から見える課題について ②生活時間調査結果から生活時間をどう組み立てると、健康的にかつ学習効率が上がるか。 ③SSK-P と学習状況の関連性について ④定期健康診断後の事後措置・受診率をどう上げていくか。 ※ABC グループに分かれ資料を基に課題解決に向けて協議した→全体会でまとめ。	A 学校医５名 学校薬剤師１名 保健所１名 B 保護者３名（PTA 会長、副会長、広報委員長） B 校長、教頭、事務長、主幹教諭 C 主任主事（進路、生徒、教務、人権、総務、学年、体育、保健）、保健部、養護教諭 計 35 名	1 時間 20 分	①『スレンダーな体型だが背筋力、持久力が弱めなので筋力トレーニングを増やし、食事指導を組み合わせると筋肉量が増えて強い体ができ、怪我をしにくくスポーツ能力も上がる』という指導資料に結びついた。 ②『睡眠時間と食事を柱として時間を組み立てていること』が最も大切であることを全員で共通認識でき指導しやすくなった。 ③環境整備することで衛生面が向上し、疾病にかかりにくく、脳にもよい結果を与えることを助言頂き、より指導しやすくなった。 ④医学・薬学的見地から見た生徒理解ができ指導の幅が広がった。 ⑤内容を広報紙で各家庭に伝えられ、連携、協力が得られやすくなった。 ⑥参加者全員が生徒の健康問題に対処し連携する気持ちが強化出来た。 ⑦チームとしてのまとまりの意識が強くなった。

イ　臨時のミニ学校保健委員会

全体で開催する学校保健委員会は年に１～２回であるが、課題を認識すると、ミニ学校保健委員会を招集し、該当の学校医や学校薬剤師、保健所等の出席を得て、解決に向けて時間を設定して会議を行うことが出来るようにしている。

これまで、部活動生が擦り傷から約１００名のとびひ集団発生（溶連菌感染症）した時のミニ学校保健委員会（学校医・学校薬剤師・保健所出席）や、蚊の大量発生への対応時、メンタルヘルス対策時等、小会議ながらチームとして、着実に解決へ向けた委員会として機能している。

④　事後の取組

ア　学校保健委員会で協議された内容は、育友会広報誌（いちょう）や保健だよりを通じて、学校内だけでなく、保護者にも届くようにしている。PTA 広報委員長が学校保健委員会のメンバーとなっているので、報告に保護者の視点からの切り口が加わり、各家庭で取り組むべきことが分かりやすく伝えられ、課題解決のための連携がとりやすくなっている。

イ　学校内には保健主事が翌日に内容を簡潔に伝え、早期の情報の共有化を図るように努めている。また総括は保健部会で行い、そのまとめを全職員に知らせ、学校全体で課題解決に向かうよう取り組んでいる。

ウ　学校医、学校歯科医、学校薬剤師の先生方には、事後の取組の様子について適宜お伝えし、さらにアドバイスを頂くようにしている。

例えば、健康診断後の治療率向上のために、「意識改革とねばり強い指導の工夫」との助言を頂き、３年間で 40%の治療率へと向上した。

まだまだ、健康診断の意味が十分でないと指導頂いているので、この取組を充実させて、生徒の生涯の健康づくりへつなげていかなければならない。これが課題の一つである。

⑤　地域との連携

ア　本校は菊池地域にあるので、熊本県菊池保健所と連携していくつかの事業を行っている。

学校保健委員会にも保健師に参加頂き、生徒の実態から、地域の若者の生涯にわたる指導の工夫へつなげられている。

イ　菊池保健所が主体となって開催される菊池地域思春期事業委員会には、菊池地域の幼、小、中学校、高校、特別支援学校、行政、大学研究者、NPO 法人等が参加する。そこで、幅広い分野の他校の実践を知り、専門家のアドバイスも得て、本校の課題の解決に向けての示唆となる連

携活動となっている。

（２）　地域学校保健委員会

菊池地域思春期保健ネットワーク会議が、その役目を担っている。

①　目標

菊池地域の関係機関の連携及び効果的な取組を推進する。

②　構成

学校保健関係職員、教育事務所、医療機関職員、開業助産師、市町職員（助言者として、熊本大学大学院生命科学研究部教授）

③　計画・運営

熊本県菊池保健所が計画、運営する。

④　事後の取組

協議の上、提出された取組を学校の保健部会で、展開できるか協議した。平成 23、24 年度は、思春期相談携帯ネットワークの構築についてであった。誰にも相談できない悩みに、熊本大学、医療機関と連携して取り組もうとするものである。情報管理の問題をクリアして、取り組み始めた段階である。

⑤　地域との連携

上記の取組を、熊本県健康福祉部の「思春期保健（思春期健康教育）関係者連絡会」とつながり、取組の検証をしながら、より広く課題解決を考えるために連携している。

Ⅱ　特徴的な活動

本校では、健康教育の様々な視点からアプローチし、生徒の自尊感情を高め可能性を伸ばすことに取り組んでいる。

１　**学習・体力・スポーツ能力を向上**させるための健康教育からのアプローチ

①　学習との関連性（学習時間調査・考査結果・宅習無限記録）をふまえた生活（睡眠・食事）指導の推進

②　健康教育の視点を重視した健康診断と事後措置の徹底

２　環境教育・安全教育の推進

①　**SSK-P（学習環境整備プラン）の徹底**

②　こころの教育としての掃除教育（掃育）の推進

③　ゴミ分別やエコ活動の充実（3R）

④　保健・美化委員会の活動の強化（ピア・リーダー育成）

３　**こころの教育の推進（ＷＹＳＨ方式を活用して行う）**

①　職員の手作りによる、身近な実感を伴った取組を行い、自尊感情を高め

る。

② 心身のサポートが必要な生徒への丁寧な対応、教育を行う。

③ 校内、スクールカウンセラー、保護者、専門家、医療機関等との連携

この中で、本校の特徴的な活動として、生徒が自分の持っている能力をより発揮できるための基盤となる自尊感情に着目して、**A SSK-P（Study Space Keeper－Plan）と、B ＷＹＳＨ方式を活用したこころを育て自尊感情を高める教育**に組織的に取り組んでいる。

A 学習の伸びとこころを育てる【SSK-P（学習環境整備プラン）】
～平成 20 年度から平成 24 年度の取組～

1 活動のねらい

（1） 学校の現状と重点課題

① 学校の現状

平成２０年、本校は、部活動に学習に取り組もうと、朝早くから夜暗くまで元気に学校生活を送る生徒であふれる、活気ある学校であった。しかし、忙しい日課の中で、教室に入るなり荷物は机近くの床に置き、教科書類やプリント類、体育服・武道着がロッカーに無造作に入れられ、整理された状況になかった。そのため、教師が机間指導をする時に床に置かれた荷物が邪魔になったり、つまずいて怪我をする生徒もいて危険な状況があった。このことは、災害発生時に避難経路が確保されないことにもなるという大きなリスクも意味していた。また生活時間調査では、家庭学習時間が少ないという結果が出て課題となったが、その家庭学習の元となる教科書類をロッカーに置いたままの状況があった。さらに、ロッカーの上や中に、パンの袋や飲み物のカップが放置された状況も時々見られ、衛生面でも心配があった。掃除時間には、配置された棒雑巾で床を拭くが、すみずみまで綺麗にしにくく、その床に座って昼食をとる姿があり、感染症も懸念していた。

② 重点課題

このように、教室が整備されていないと、怪我の発生、災害時の避難ができない、衛生面の心配、感染症リスクも高くなるなどの健康課題があった。そこで、この課題に取り組み、学校を綺麗にして環境を整えることで、安全な学習環境が作られ、落ち着いて学習に向かう姿勢ができ、こころの成長にもよい成果をもたらすと考えた。またそれには、「教室を綺麗にしたい。」という生徒の熱い声を聞いたことも、動き出す力となった。この生徒の気づきを大切に、生徒も巻き込みながら学校全体で、見える形の教育を進めることで、生徒のやる気や自尊感情を高め、自己の可能性を伸ばす教育にもつながると考え、学習環境を整える取組を始めた。

【生徒の声（平成 20 年度）「教室が整理されていない」「綺麗にしたい」】

生徒の声を拾い、それを教育に繋げる方法を考える。自分の気づきや思いを伝えることが何かを変えることを教える。これにより、何事にも意欲を持ち行動する力を育てる。

（2） 活動のねらい

① 教室環境を整えることで安全な環境を作り、怪我や災害時の避難リスクを減らす。

② 掃除指導により、綺麗な環境を作り、感染症防止に努める。

③ ロッカー・机を整理し教科書類の持ち帰りを指導することで、家庭学習時間を増やし学習成績をあげ進路目標に向けて意欲的に取り組む姿を育てる。

④ 環境美化に努めることで達成感と有能感を感じさせ、何事にも取り組む気持ちを育てる。

【掃除時間の考え方】
1 日に 15 分間の掃除で年間約 3000 分間。50 分授業時間に換算すると約 60 時間分。この時間を自分で目的を持ち、計画・手順・段取りを考え、動ける力を身につけさせるために、さらに、自分と向き合い心を磨く人間教育として生かすことを目的とする。

2 計画と実践の状況

（1） 全体及び年間指導計画

① 全体計画

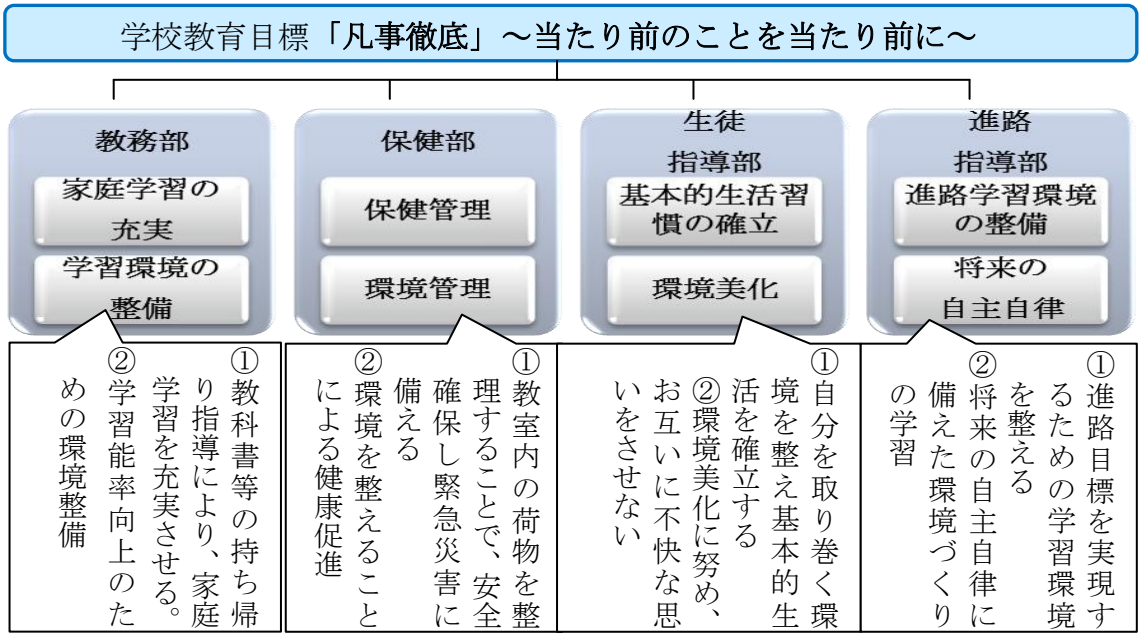


図 12 SSK-P 連携組織図

② 年間指導計画

４月	対面式時、全校掃除指導。SSK-P の説明と指導。
５月	教科書持ち帰り表作成、クラス掲示、これに基づき指導。
７月	部活生指導、テスト前指導徹底。保健委員会事前点検・指導。 SSK-P 点検、結果を終業式時報告し、クラスにて確認指導。
12 月	年末２週間指導徹底。SSK-P 点検指導→クラスにて確認指導。
１月	テスト前、入試前指導徹底。SSK-P 点検、整備
２月	１年間の総括に基づき【掃除マニュアル】や指導内容の改定。
３月	部活生指導。SSK-P 点検、SSK-P1～4 の振り返りと指導。

（２） 活動内容

① 活動ステップ

ア **SSK-P1（study space keeper plan）**

・教室の環境整備を行うことで生徒の学習空間および安全面を確保する。

・ロッカー内の私物の持ち帰りを行う。

イ **SSK-P2（整理 整頓 家庭学習）**

・教室内の環境整備を行い、生徒自身が合理的な私物の整理整頓が行える環境を整備する。

・教材の精選 ・整理整頓の推進

ウ **SSK-P3（掃除を 率先 環境美化）**

・校内美化を継続可能なものにするために、全校で掃除に取り組み環境を整備する。

・「掃除マニュアル」の作成

・美化、保健委員会がピア・リーダーとなり、みんなで掃除に取り組む。

エ **SSK-P4 （students with study and kindness）**

・教室や校内の環境整備を行い、生徒自身が環境を整備することで、学習に対する意識を再認識する。また、学校を綺麗に使う、周りを不快にしない、公衆への思いやり等の気持ちを身につける。

② 取組の実際

ア 教室環境の調査

生徒保健委員、美化委員会でロッカー内や机周辺の調査を行い実態把握それをもとに気づきと課題を協議してまとめ、保健部会に提出した。

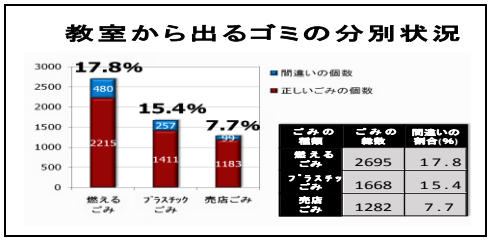


図 13 教室ゴミの分別状況

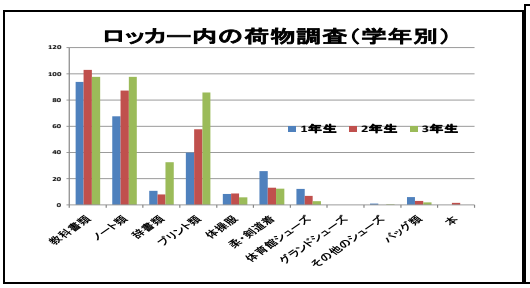


図 14　ロッカー内荷物調査

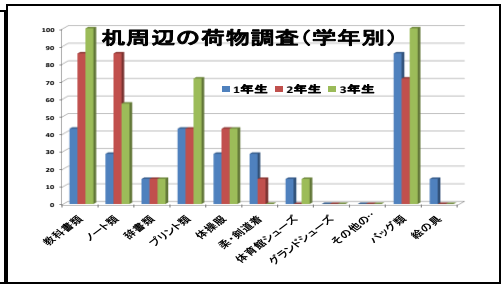


図 15　机周辺の荷物調査

イ　保健部会→運営委員会→職員会議の流れで、ア教室環境の調査結果について協議し、取組のねらい、方法、各部署の役割の確認などを、**図 12 SSK-P 連携組織図**に沿って説明、共通理解を得た。

表5　指導スライドの一部抜粋

ウ　年度当初の全校集会で「掃除の仕方」について保健部が作った学習資料をスライドを使って、体育館にて全校に指導した。

エ　机間指導や安全確保の意味もあり、机の配置を６×７または7×６のいずれにするかを、「モデル机配置表」を作って、職員会議に投げかけ

た。→クラスの人数と、広さにより異なるので、担任裁量としたが、災害時の避難経路がスムーズに確保できる安全管理の視点を第一に考えて決めることを確認した。

オ　教科書類の持ち帰り指導を行うため、各教科で協議した資料をまとめ、表 6「ロッカーに置いてよいもの一覧表」を作成した。これを教室に掲示し、教師は的確に温度差なく持ち帰り指導がしやすくなった。

表6　ロッカーに置いてよいもの一覧表

熊本県立大津高等学校 SSK－pⅡ教科書の整理 2009.3.18保健部

ロッカーに置いていていいもの一覧

教科	1年 週末まで	1年 学期末まで	2年 週末まで	2年 学期末まで	3年 週末まで	3年 学期末まで
国語	文法書 単語帳 テキスト問題集	図説・辞書（手引き）	文法書 単語帳 テキスト問題集	図説・辞書（手引き）	文法書 単語帳 テキスト問題集	図説・辞書（手引き）
地歴（日本史）				図説日本史 日本史B 研究ノート		図説日本史 日本史B 研究ノート
地歴（世界史）				タペストリー		
地理			図表 地図帳			
公民						
数学			日々の演習	チャート式、チェックノート、朝テストテキスト（チェックノート数１+A）		
理科						
英語			Listening Box1・辞書・Challenge 英語構文90・朝自習教材			
体育	体育服	剣道着 柔道着	体育服	剣道着 柔道着	体育服	
家庭		資料集		資料集		
芸術・音楽		教科書 MUSIC NOTE		教科書 MUSIC NOTE		教科書 MUSIC NOTE
芸術・美術		全教材(美術棟専用機内)		全教材(美術棟専用機内)		全教材(美術棟専用機内)

☆下校時、ロッカー内には荷物を置かないことを原則とする。
但し、上記の表を参考にして、持ち帰りを行ってもよい。

部分は毎日持ち帰るものです。学校に置いておくことはできません。
机の中の物も全て持ち帰って下さい。

図 16　ロッカー使用見本

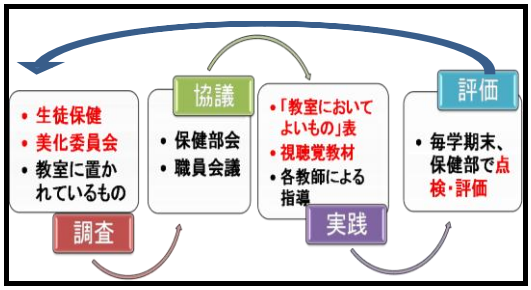


図 17　実践の流れ図

カ　保健委員会が朝会時、終礼時に各クラスで持ち帰り呼びかけを行った。

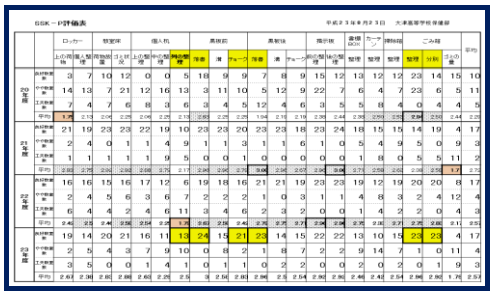
キ　持ち帰っていない荷物は職員室に移動、担任により指導返却をした。

ク　持ち帰り状況、掃除の状況について、学期末に保健部で点検・評価し、職員会議、全校集会で課題と今後の取組について話し、共通認識を持った。

ケ　トイレ掃除職員研修の実施

平成 23 年 6 月 29 日「くまもと掃除に学ぶ会」を講師に、全職員で生徒用トイレを掃除。生徒を指導する前に教師自らが掃除の意味を体感し、生徒たちに返していける教育実践へつなげる、という目的で実施した。掃除後の反省会は、参加者全員、達成感で笑顔であった。

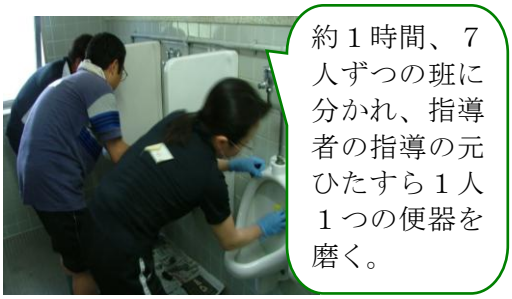
表 7　SSK-P 評価表



SSK－P評価表　平成２３年６月２３日　大津高等学校保健部

		ロッカー		教室床		個人机		黒板前		黒板後		黒板後		掃除後		最後BOX	カーテン	掃除後		ごみ箱		平均
		上の荷物	個人整理	荷物整理	ゴミ拾	上の整理	中の整理	中の整理	荷物	溝	チョーク	荷物	溝	チョーク	前の整理	後の整理	整理	整理	整理	整理	分別	ゴミの量	
20年度	教科書類	3	7	10	12	0	0	5	18	9	9	7	8	9	15	12	13	12	12	23	14	15	10
	中の教科書	14	13	7	21	12	16	13	3	11	10	5	12	9	22	7	6	4	7	23	6	5	11
	工具教科書	7	4	7	6	8	3	6	3	4	5	12	4	6	3	5	5	8	4	0	4	4	5
	平均	1.7	2.13	2.04	2.25	2.04	2.25	2.13	2.63	2.25	2.25	1.94	2.13	2.19	2.38	2.44	2.38	2.50	2.50	2.94	2.50	2.44	2.25
21年度	教科書類	21	19	23	23	22	19	10	23	23	20	23	23	18	23	24	18	15	15	14	19	4	17
	中の教科書	2	4	0	1	1	4	9	1	1	3	1	1	6	1	0	5	4	9	5	0	9	3
	工具教科書	1	1	1	1	1	9	5	0	0	1	0	0	0	0	0	1	8	0	5	5	11	2
	平均	2.63	2.75	2.94	2.92	2.88	2.75	2.17	2.94	2.94	2.75	3.00	2.94	2.63	2.94	3.00	2.75	2.58	2.63	2.38	2.50	1.7	2.75
22年度	教科書類	16	16	15	16	17	12	6	19	18	16	21	21	19	23	23	19	12	19	20	20	8	17
	中の教科書	2	4	5	6	3	6	7	2	2	2	1	0	3	1	1	4	8	3	2	4	12	4
	工具教科書	6	4	4	2	4	6	11	3	4	6	2	3	2	0	0	1	4	2	2	0	4	3
	平均	2.44	2.5	2.44	2.56	2.54	2.25	1.75	2.63	2.56	2.44	2.75	2.75	2.71	2.94	2.94	2.75	2.38	2.71	2.75	2.88	2.11	2.53
23年度	教科書類	19	14	20	21	16	11	13	24	15	21	23	14	15	22	22	13	10	15	23	23	4	17
	中の教科書	2	5	4	3	7	9	10	0	8	2	1	8	7	2	2	9	14	7	1	0	11	4
	工具教科書	3	5	0	0	1	4	1	0	1	1	0	2	2	0	0	2	0	2	0	1	9	3
	平均	2.63	2.38	2.88	2.88	2.63	2.25	2.5	3	2.56	2.88	2.94	2.5	2.54	2.88	2.88	2.44	2.42	2.54	2.88	2.88	1.76	2.57

図 18　トイレ掃除職員研修の様子


約１時間、７人ずつの班に分かれ、指導者の指導の元ひたすら１人１つの便器を磨く。

コ　生徒保健委員会・生徒美化委員会をピア・リーダーとして活動させることに取り組んだ。自分たちが取組を行うことで、学校が着実に綺麗に変わっていく達成感を経験させた。そして、それを、仲間である他の生徒に伝え、やる気を出させ、その輪を広げていく取組をさせた。

このことにより周りが変わるだけでなく、生徒自身が学校生活の様々なことに積極的に取り組むようになり、学習成績もよくなっていった。その方法は、生徒が掃除時間に移動することなく、集中して取り組めるように、保健委員会と美化委員会が校内を役割を持って動き、掃除時間を効率的にデザインするというものであった。

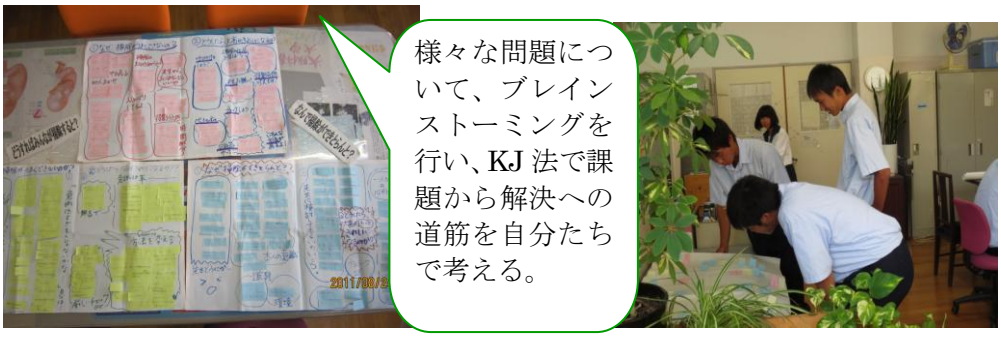


図 19　保健委員会協議資料

○　保健委員会によるトイレ用品の補充のデリバリーサービス

トイレットペーパーや石鹸等の掃除用品、サニタリーボックス袋（印刷用紙の包装紙を使い、委員会で作成したオリジナルエコ袋）を一括して掃除時間に配布し、管理している。これにより、無駄な消費を防ぐというエコ活動の二次的効果も得られた。使用状況については、毎日チェック用紙に記入し、使用状況が多い時は全校に注意喚起をしている。これにより、トイレットペーパーの年間使用金額も減少してきている。

図 20　保健委員会デリバリーサービス

○　美化委員会によるゴミ回収

ゴミ分別容器を教室内に５つ（燃やせるもの・プラスティック・売店ゴミ入れ、リサイクル用紙、ペットボトルキャップ入れ）を設置した。これを掃除時間に、美化委員がまとめて回収を行っている。これにより、

回収ビニール袋を大幅に減少させることができた。消耗品の出費を減らす意味の活動と共に、リサイクル・リユース活動推進にもなっている。

※　本校は、ペットボトルは各自持ち帰ることになっている。ペットボトルキャップのみ、ワクチンボランティア活動のために回収している。（毎学期ごと約 14 人分のワクチンとなっている）

図 21　美化委員会によるゴミ回収

○　大津町清掃ボランティア活動への参加

毎年、6 月と 10 月の年 2 回全校生徒で学校周辺の清掃活動を行っている。ゴミ拾い、草引き作業に加えて、大津町公共施設 7 カ所のトイレ掃除活動を保健委員と美化委員で行っている。公園のトイレは、特に汚れがひどいが、生徒たちはためらいなく束子で便器をこすり、壁や床を拭きピカピカに磨き上げ、満足した表情をみせた。平成 23 年度は雨の中の実施であったが、大津駅新旧トイレも綺麗に磨き上げ駅長さんからも喜んで頂けた。その言葉を聞くことで、自分の実践の達成感、有能感を得て自分自身に自信がついていく取組となっている。

図 22　ボランティアトイレ清掃活動

サ　部室の中が雑然としていると複数のマネージャーから報告を受けた。そこで、キャプテン会議を開いて指導を行い、部室の清掃・管理を促した。整理状況に問題がある部室については、顧問会議で配置換えなどの指導を行い、整理整頓ができるように工夫した。教室や校庭だけでなく、部室内にも SSK-P の思考が生かされてきている状況にある。

（3） 生徒会の活動

そもそもSSK-Pの中に生徒会の活動は深く関与している。この活動意識が、自己肯定感、自尊感情を高め、さらなる活動への意識、意欲となり、次々に自分たちの気づきに基づいた取組を打ち出している。

「大津高校清掃プロジェクト」発動！
私は、できる！やりたい！９０周年に、私はコレをやった！
と心に刻みたい人は集まれ！

1　目的　90 周年記念式典に向けて、大津高校を徹底して綺麗に磨き上げる

2　期間　平成 24 年 10 月 15 日（月）～24 日（水）放課後（綺麗になり次第期間終了）

3　場所　校門前から、体育館までの動線を集中して掃除する

①校門前歌碑、３綱領碑、女子サッカー優勝碑・・　磨き上げる
②校長室前から保健室前までの窓ガラス・・磨き上げる
③会議室内から進路室、階段の窓ガラス・・磨き上げる
④視聴覚室内から渡り廊下の窓ガラス・・磨き上げる
⑤生徒昇降口の窓ガラス、額・、靴箱の上・磨き上げる
⑥全ての動線の掲示物の点検、古いものの撤去、貼り替え、画鋲、テープ除去
⑦全ての動線の壁、天井のすす払い、床点検、付着物の除去、床磨き上げ
⑧昇降口両脇のコンクリート部分の清掃、手洗い所磨き上げ
⑨１の４前渡り廊下から体育館までのコンクリート部分の清掃、手すり磨き
⑩トイレ掃除一階部分

4　得意技調査

①石を磨き上げる
②ガラスを磨き上げる
③トイレ掃除
④こまごましたこと

生徒達は、取組を考えるにあたっては、まず、ﾌﾞﾚｰﾝｽﾄｰﾐﾝｸﾞ・KJ 法で整理し、実践に移す活動をするため、周囲が理解して動きやすい。

（４）　家庭・関係機関との連携

教科書類持ち帰りを指導していることを、保護者会や学級懇談会、保護者メールで知らせ、指導の協力を依頼している。また、教務と連携し、教務の学習時間調査や生活時間調査、学習の伸びのデータと関連性を調べ、教科書類を持ち帰ることにより、学習に向かう意識が強化されることを知らせ、この連携の強化を図っている。

３　成果と課題

この取組を始めて４年。実態調査をもとに、保健主事を中心に教育活動全体を通して、生徒と職員、家庭が一体となって、SSK-P（学習環境整備プラン）に取り組んできた。まだ、満足できる成果には至っていないが、次のように成果と課題をまとめてみた。

（１）　成果

① **表６ロッカーに置いてよいもの一覧表、図 16 ロッカー使用見本**でロッカーや机の中の整理を行い、机の周囲に荷物を置かないように教室環境を整えたことで、机間指導もしやすく、つまずいて怪我をする生徒がいなくなり、また、災害発生時時に避難しやすくなった。

② 掃除指導により、生徒の意識が変わり、学校が整理され綺麗になった。**（図 23　SSK-P　取組の推移）**

特に、黒板、ロッカー上の整備、教室床が綺麗になった。これは、棒雑巾を撤去し、雑巾とバケツの日本文化の基本ともいえる形に還る指導をしたことが大きい。これにより感染症のリスクも減る効果があると考えられる。

③ ロッカー・机を整理し、教科書類の持ち帰りを指導することで、家庭学習時間が増えた。**（ 図 24 家庭学習時間調査）**

これは、各教師の高い認識に基づいた指導に期するが、持ち帰り表により、個人のロッカーの整理指導の目安が明確になったことも要因の一つだと考えられる。

④ 保健委員会・美化委員会がピア・リーダーとして活動することで、達成感や有能感を感じ、何事にも取り組もうとする姿勢がみられ、生徒自らが主体的に心地よい環境作りを行おうという気持ちが育ってきている。

週１回の委員会で委員長の元、健康のリーダーとしての意識が高まり、取組が広がる。。

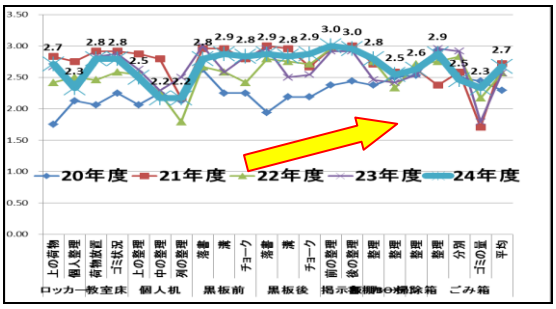


図 23　SSK-P 取り組みの推移

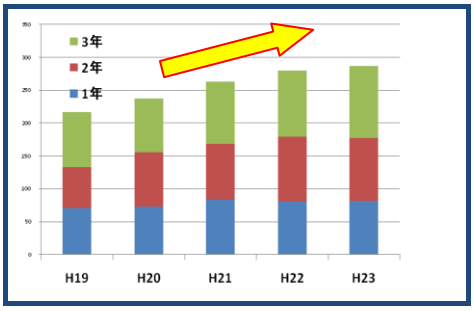


図 24　家庭学習時間調査

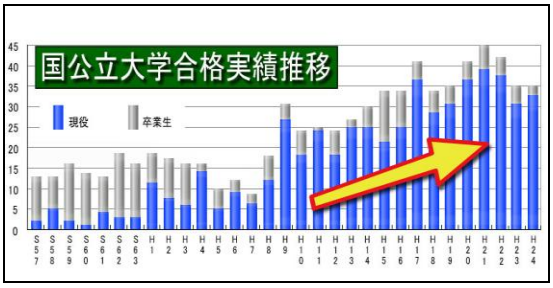


図 25　国公立大学合格実績推移

SSK-P を進め学習環境を整えることで、学習時間も増加し進学状況も少しずつあがり、効果的な取組であると考えられる。

（２）　今後の課題と対策

① 家庭生活で、整理や掃除など当たり前のことを経験していないと思われる生徒もいる。「生活の基本を教える時間」と認識して指導する必要がある。学校の様子を直接、あるいは紙面やメールを使いながら発信し、また家庭生活でも、当たり前のことが当たり前にできるよう指導することを確認し、より一層の連携を図ることが、成果の定着には必要である。

② 環境を整えることが、効率的な学習をもたらし、自分自身を育てることにつながることを実感できるよう、実際の学習成績との関連性を具体的な資料を使って、分かりやすく伝える工夫が必要である。

③ 継続的な指導をねばり強く続けることが必要である。

④ 生徒がより主体的に取り組めるよう、生徒と協議を重ね、取組の検証と創造を繰り返していく組織活動の充実を図ることが必要である。

B　WYSH 方式で行う健康教育の展開

1　活動のねらい

（１）　学校の現状と重点課題

本校は、９０余の県内外の中学校から、自分の可能性を伸ばしたいという目的を持った生徒たちが集まり学校生活を送っている。その生徒たちは明るく素直で、校内では挨拶を交わす声が響き、問題行動は非常に少ない。

しかし、生徒の通学圏内では人口の急激な増加に伴い、様々な犯罪や問題が起きている。そのような環境があるが、生徒たちは自分のこととしてリスクを感じている様子が薄く、予期しないことが起こった際に自分で対処出来るのか、不安な状況があった。また、携帯やスマートフォンがコミュニケーションツールとしてその力を伸ばし、豊かな人間関係を構築するための face to face でのコミュニケーション力が弱くなっていくのを危惧していた。そこで、身近にあるリスクに気づかせ、どのようにして自分で考え、判断、行動する力を日常的に学ばせるかが課題であった。

（2） 活動のねらい

健康教育目標としてあげた、生徒の自主性を育み、自尊感情を高め、様々な物事に出会った時、自分で考え、自分で選んでいくことを教えなければならない。そこで、『若者の真の幸福を願う』プロジェクトとしての取組である WYSH 方式を平成 20 年度から多角的に健康教育全体で展開することとした。

これにより、心を揺さぶり、自尊感情を高め、思いやりの心や豊かな人間関係を築く姿勢を育てることをねらいとした。

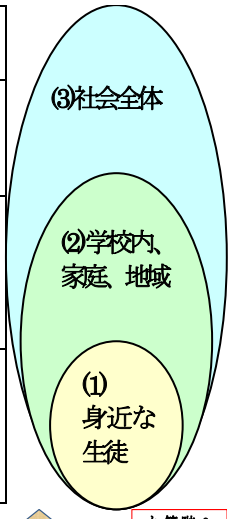
2 計画と実践の状況

（1） 全体及び年間指導計画

三層構造（視点と対象の拡大）から行動変容を促している。

	実施者	ねらい	実施時期	内容
⑶ WYSH 方式による「生と性に関する教育」	保健部	実際の生活でどう生きるか学ぶ。	1～2 月(11 月～準備)	調査結果 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ ﾒｯｾｰｼﾞﾋﾞﾃﾞｵ
⑵ 学校全体から教育の種を集める WYSH 方式による「こころの教育」	保健部	一人ひとりの大切さと、人とつながる暖かさを学ぶ	10 月(8 月～準備)	生徒や教師の実体験から展開 ﾒｯｾｰｼﾞﾋﾞﾃﾞｵ
⑴ ミニ WYSH 方式による教育（生徒が主体的活動で行うピア活動）	生徒保健委員会	生徒が課題だと思うことを生徒同士で学びあう	9 月(7 月～準備)	ｱﾝｹｰﾄ調査、ｲﾝﾀﾋﾞｭｰ、調べ学習、ﾒｯｾｰｼﾞﾋﾞﾃﾞｵ

三層構造ｲﾒｰｼﾞ図



（2）活動内容

(1) ミニＷＹＳＨ方式による教育

① ねらい

保健委員会が主体となり「全校生徒に考えてほしい大切なこと」をテーマに設定し、企画、実践し、全校生徒に伝えていくピア・エデュケーション活動である。毎年 30 分間文

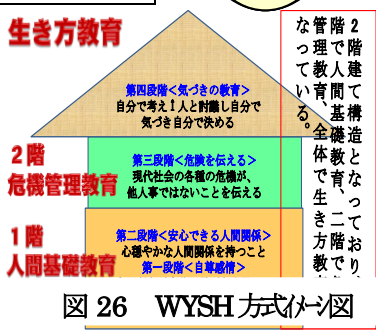


図 26 WYSH 方式ｲﾒｰｼﾞ図

化祭の全校拘束時間に、生徒、保護者に向けて発表する形で行っている。生徒が生徒に伝える活動であるので、学習内容が吸収しやすいという利点がある。また、実践する側の生徒は、考える力、実行する力、伝える力が伸びて、実践後は達成感を味わい、自尊感情が高まるという２重の効果がある。この時、誤った方向や偏った内容にならないように、的確なアドバイスを行いつつ、実践へ導くように注意し指導している。

② 方法

ア　保健委員会で意見を出し合いテーマを決める。

イ　ねらいを明確にし、共通認識を持ってあたるために協議を徹底する。

ウ　各テーマに沿って実態調査、データ収集を行い分析する。

エ　インタビューを行い気持ちを聞きとり、伝え合う学習を行う。

オ　正しい知識を調べ伝える学習（パワーポイントを使用し、保健委員会で調べ、協議を重ねたものをまとめ、全校生徒に伝える）をする。

カ　テーマに沿って、メッセージビデオを作成し発表する。全校生徒が自分のこととして考え心に沁みる学習を目指している。

③ 内容

表８　ミニ WYSH 教育

年度	テーマ	内容
平成２０年度	つなぐ	いのちのつながり。いのちが受け継がれてここに生きている自分を感じる。
平成２１年度	まもる	ぬくもり、たくさんの愛に支えられて生きていることを知る。
平成２２年度	親子の愛	「虐待」本当の愛とは何かを考える。
平成２３年度	絆	東日本大震災から学んだこと。
平成２４年度	よりよく生きる	「もし、大津高等学校の保健委員がドラッガーのマネジメントを読んだら」とし、自分自身のよりよい改革の進め方を学ぶ。

協議の様子～伝えたいことは何なのか詰めていく。（意見でホワイトボードがいっぱいになる。）これで、共通認識が出来、自分たちで動けるようになる。

平成２４年度熊本県高等学校生徒保健委員会連絡協議会で発表の様子～日常の活動を、マネジメントの視点からスライド・動画を作り説明する。

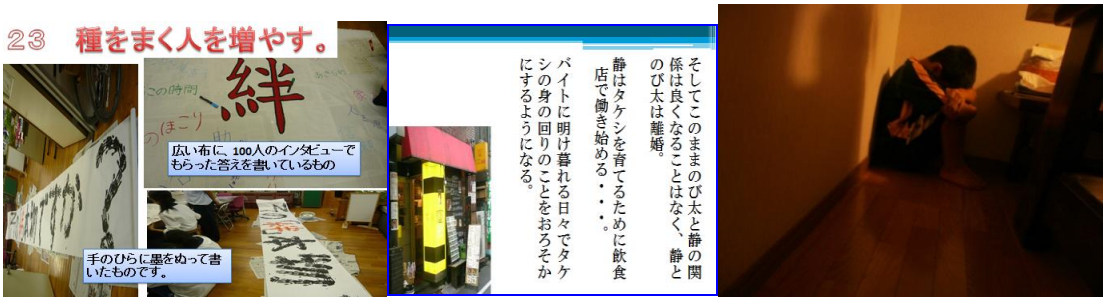


図 27　生徒が作るスライド「東日本大震災から学んだこと」、「虐待」より抜粋

(2)　WYSH 方式による「こころの教育」

～全校一斉 LHR として、体育館で実施。

①　平成 23 年度こころの教育【ありがとうのメッセージ 】

ア　ねらい

生徒が前向きな姿勢で学校生活を送り、その持っている能力を高めるには、自尊感情を高めることが必要である。そして、その基盤となるのは、思いやりと感謝の気持ちである。しかし、その気持ちを伝える方法が、携帯やスマホ等を通して行うことが増え、顔と顔を会わせて五感で伝えあうことが少なくなってきている。そこに、誤解が生じたり、気持ちと言葉が遊離してうまく伝わらなかったりと、人間関係のねじれも生じさせている。

そこで生徒に、素直に言葉に出して伝えることの大切さ、自分が周りの人たちに支えられて生きていることに気づき、一人一人の大切さと、人とつながっていく暖かさを伝えることをねらいとした。

イ　方法

(ｱ)　誰かに伝えたいありがとうの言葉を、「○○から□□へ」一行詩の形で、一人１編ずつ、準備した用紙に書く。

(ｲ)　書く時には、架空のことは書かない。あくまでも自分自身で経験したり感じたりした『ありがとう』を言葉にし、保健部に提出する。

(ｳ)　全校生徒、職員から集めた、一人一つの「今、誰かに伝えたいありがとう」のメッセージを、担任と保健部学年担当者で読み、その中で、全校生徒に特に伝えたい数編を選ぶ。（どれも伝えたいものだが）

(ｴ)　それを保健部で集約し、該当の生徒に全校紹介（名前は出さない）の了承を得る。その後、ありがとうのエピソードを保健部で聞き取る。

(ｵ)　各エピソードを紹介の後、スライドに書いたメッセージを、保健部の読み語りで聞かせ、沢山の様々な愛に包まれ生きている自分を知る。そして、人との関わりの暖かさを伝え、自尊感情を高めていく。

(ｶ)　保健部制作メッセージビデオ「ありがとう」を視聴し、自分の家族や友人、自分を支えてくれる人への感謝の気持ちを実感として学ぶ。「今日、いくつのありがとうを伝えられるだろう」と締め、実行を促す。

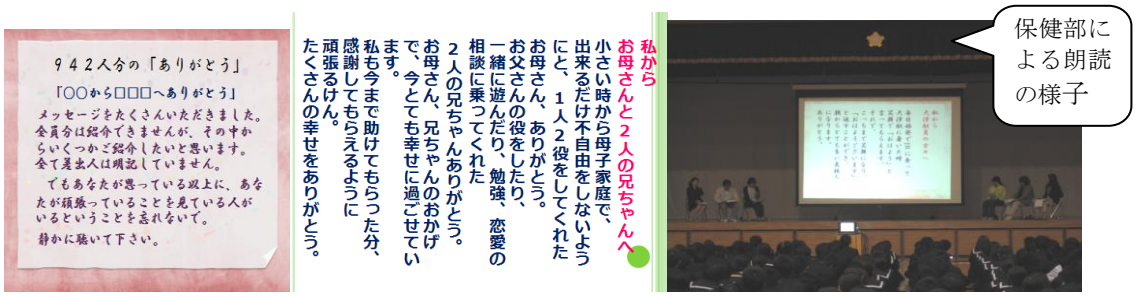


図 28　ありがとうメッセージスライド全 38 枚より抜粋

メッセージボックスの中の一つの「ありがとう」

このありがとうメッセージは、多くの生徒や先生の暖かい涙を誘った。この LHR の後、男子生徒が部活を終えた夕方遅く、迎えに来られた母親に、お小遣いで買った一つの小さなケーキを渡し「いつもありがとう」と伝え、母親が号泣されたとの話もある。そしてこれは、生徒や職員から多くの継続希望の声があり、保健室前にボックスを作り『いつでも、誰かに伝えたいありがとうメッセージ』を伝えられるようにした。

その中に入っているメッセージは、生徒の力となり引き継がれている。

『～大津高校にありがとう～』

正直、私は具体的な目標を持つことなくこの大津高校に入学してきました。「サッカーが強い」、「バスケが強い」ということくらいしか知らずに入学してきたのです。なので、先生が仰られていた「大津高校生としての自覚と誇りを持て」という言葉を最初は飲み込めませんでした。しかし、チャレンジ大会、体育祭等といった行事に、一生懸命に取り組む先輩方やご指導してくださる先生方を見て、「大津高校はこんなに凄いんだ」という気持ちが生まれていました。実際に3年間多くの行事に参加しましたが、終わった後の達成感は、何事にも本気で取り組む大津高校でしか味わえないと思います。今日でこの大津高校を卒業しますが、進学先の大学で出会った新たな友人に、自信を持って「大津高校出身」と言えます。何事も本気で取り組むことの大切さを教えてくれた大津高校に感謝します。３年間ありがとうございました。

余談ですが、私は教員になることが夢です。教育実習等にも参加することになります。勉強不足なのでどうなのか分かりませんが、もしも実習の場所を希望できるのなら、迷うことなく大津高校を選びたいです。また、教員になるなら１日でも早く、そして１日でも長く大津高校に勤務して恩返ししたいです。

②　平成 24 年度こころの教育【いのちのメッセージ】

ア　ねらい

いじめによる若い世代の自殺が連日報道され、また、東日本大震災や九州北部豪雨災害等、かつて経験したことのないような状況が生徒たちを取り巻いている。阿蘇では豪雨を経験した子どもが PTSD 様の症状を呈し、これからの心のケアが重要だと聞いている。また、一方では、ゲームや核家族等により、リアリティを持って死を感じ、考える機会が少ない社会に生きていることが考えられる。そこで、生徒と身近にいる教師が経験した『命のメッセージ』を伝える取り組みを行い、生徒たちの心に一人ひとりの大切さと、人とつながっていく暖かさを学ばせることをねらいとした。

イ　方法

(ｱ)　教師がこれまでに出会った生徒や肉親、身近な方との命に関する実話で、生徒に紹介して伝えたいと思ったものを書く。

(ｲ)　それを保健部で読み、提出した教師に生徒に伝えたい真意を聞き取り、まとめ、スライドに表現する。

(ｳ)　それを全校へ、保健部職員が読み伝える。

・「読み手」という形で紹介し、書いた教師とは別であるという押さえをし、出典が分からないように配慮する。

・身近な方を亡くしてつらい生徒・職員は、途中で退席してかまわないことを最初に伝え、こころの配慮をする。

(ｴ)　保健部作成のメッセージビデオ【いのちのメッセージ】を視聴する。「生の反対はうまれないこと」という言葉から、今、生きていることの大切さや、自分の命、他者の命も共に大切であることを学ばせる。

(ｵ)　メッセージでは、プライバシー保護のため個人名は出さない。

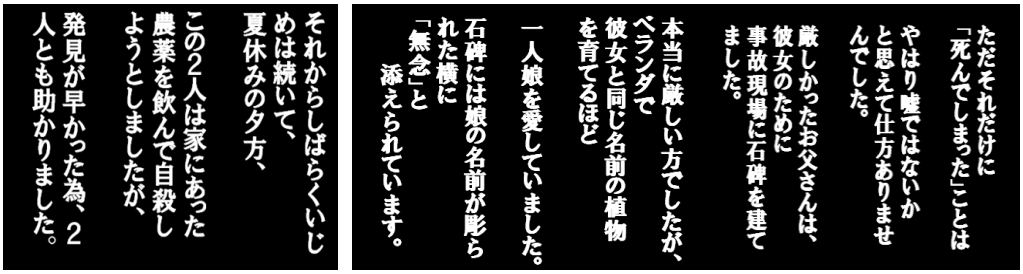


図 29　【いのちのメッセージ】スライド全 122 枚より抜粋

メッセージは、教え子の死や、肉親の若すぎる死、教師が幼い頃に見たいじめ等、普段はあまり語られないことを伝えた。そこで、誰もに平等に死はやってくること、命は有限であること、だからこそ、命は大切であり、今をしっかり生きていこうと伝えた。メッセージを聴いている会場では、水を打った様に静かで、時折すすり泣きが聞こえた。

いのちのメッセージは、職員より提出されたものから 7 つの話を生徒に伝えた。どれも、心に迫るもので、感想には、「身近な先生がこんな辛い経験をして、私たちの前に立ち授業をされている。その人間としての先生に教えて頂いていることが心に響いた」というものが多く、人間としての教師に触れ、学ぶという深さが、生徒の心の奥に沁みこみ、命を大切にしようと実感した様子が伝わった。

(3)　WYSH 方式による「性に関する教育」～1、2 年合同 LHR　体育館

①　平成 23 年度【生きていくことの意味】

ア　ねらい

熊本県は、10 代人工妊娠中絶実施率が全国平均に比べて高い状況にあ

り、性感染症の罹患率が低下していない現状にある。この自分が生きている社会の実態とリスクを認識し、正しい知識を再学習し、話し合いをする中で自分で気づき、考え、これからの未来に向けてどう行動選択をしていくかを学ぶことをねらいとする。

イ　構成と内容

・１時間目：本校意識調査結果と正しい知識を学ぶ基礎講座

・２時間目：グループワーク「未来予想図」

メッセージビデオ「生きていくことの意味」（保健部作成）

②　平成 24 年度【価値討論】

ア　ねらい　平成 23 年度のねらいにプラスして協議を中心に行うことで、自分の考えをまとめ、より現実的な身近な問題として考えさせる。

イ　構成と内容

１時間目	WYSH アンケートとワークシートを記入する。 ・　彼、彼女に求めるものの優先順位とその理由 ・　気持ちを伝える（こんなメールがきたらどう返信？） ・　価値討論（デート DV）
２時間目	①　WYSH アンケートの結果を基に、正しい知識を学ぶ。 ②　ワークシートの課題によりグループワークで協議する。その後、グループ発表を行い全体で共有し、様々な価値観があること、お互いを尊重しあう態度が大切であることを学ぶ。 ③　メッセージビデオ【伝える】を視聴し、気持ちを伝え合うことが大切で、伝え合うことで人はつながっていくことを学ぶ。

（３）　生徒会の活動

前述のとおり、(1)ミニ WYSH 方式による教育は、生徒保健委員会が主体となって行う活動である。この活動により、実施者も、受け手である生徒たちも、自尊感情が上がり、年間を通して日常生活において様々な気づきと、それを元に企画、実行しようとする気運が高まり、着実に実績を積み重ねている。

（４）　家庭、関係機関との連携

(1)ミニ WYSH 方式による教育では、保護者や、地域、保健所等からも参加され、共に涙を流されたり、(2)こころの教育後には家庭で温かい会話がなされたりしたことを PTA 新聞で広報されよい効果が得られている。(3)生教育では、地域保健所や、京都大学の木原先生に指導を仰ぎ、取組を充実させている。

３　成果と課題

（１）　成果

WYSH 方式で行う健康教育を三層構造で展開している。さまざまな物事を自分のこととして捉えないと行動変容は促せないと考えるが、生徒を軸に考え

た時、まず、一番身近な存在である同じ生徒が行う「ミニ WYSH 教育」で、自分の思いを伝えてもよい安心感を得る。そして、伝えることにより自分の考えがまとまり、自分のこととして受け入れられる準備が出来る。次に、小さい社会である学校生活を共にしている友人や教師の実体験で展開する「こころの教育」で、自分の存在を大切に思えること、いのちが大切であることを実感できている。そして、「性に関する教育」で実際の生活でどう動かなければならないのかが分かってくる。指導後の感想には、「自分の気持ちを伝えること、相手の気持ちを理解しようとすることが社会で生きていくためには大事であること。自分は大切な存在であること。人ごとではなく自分のこととしてしっかり考えていきたい。」等、これからの人生を前向きに捉えるものが多い。行動変容が少しずつだが着実に見られている。

WYSH 教育アンケート結果では全国平均より自尊感情が高く、リスク認知も高くなり予防教育としての効果があるのが分かる。また、「東京都子どもの自尊感情の傾向を把握する方法と指導のポイント」に基づき調査したところ、取組に積極的に関わった生徒集団は自尊感情を構成する３因子とも高くなっていた。一方、九州大学から協力依頼を受けた調査によれば、本校生は全てのストレスが調査校全体と比して低く、何事にも意欲的に取り組めるこころの状態であることが分かった。また、フルマラソンのチャレンジ大会でも、完走率が伸び、山道をお互いに声をかけ思いやりながら走る姿に、しなやかに心が育っている様子が分かる。

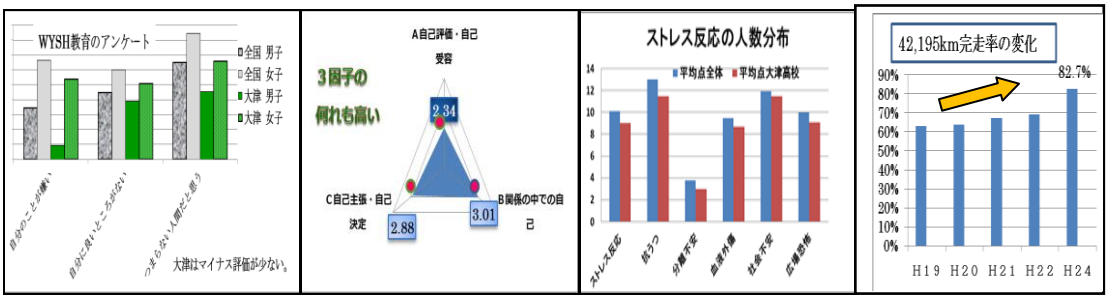


図 30 評価表

（２） 今後の課題と対策

望む生徒像→学校教育目標→健康教育目標→WYSH 方式の教育を活用しての取組を行っているが、課題としては、もっと効果を明らかにし連携の強化を図り、取組を広げていくことである。その対策として、①健康教育の**準備をし、PDCA** サイクルを持ち、②様々な**『チーム』をデザイン**し動くこと、③**『続ける』**ことを取組の基礎とし、**生徒の行動変容**を感覚ではなく、きちんと**評価**して表し、それを**学校全体で共通理解**すること。そして、学校全体で**よりよい取り組み**を考えていくこと、それが、**自分で考え、判断、行動できる生徒を育てる健康教育**が意識され、**学校全体に広がっていく**ことになると考える。これからも、進化する大津高等学校を目指し、しっかりと取り組んでいきたい。